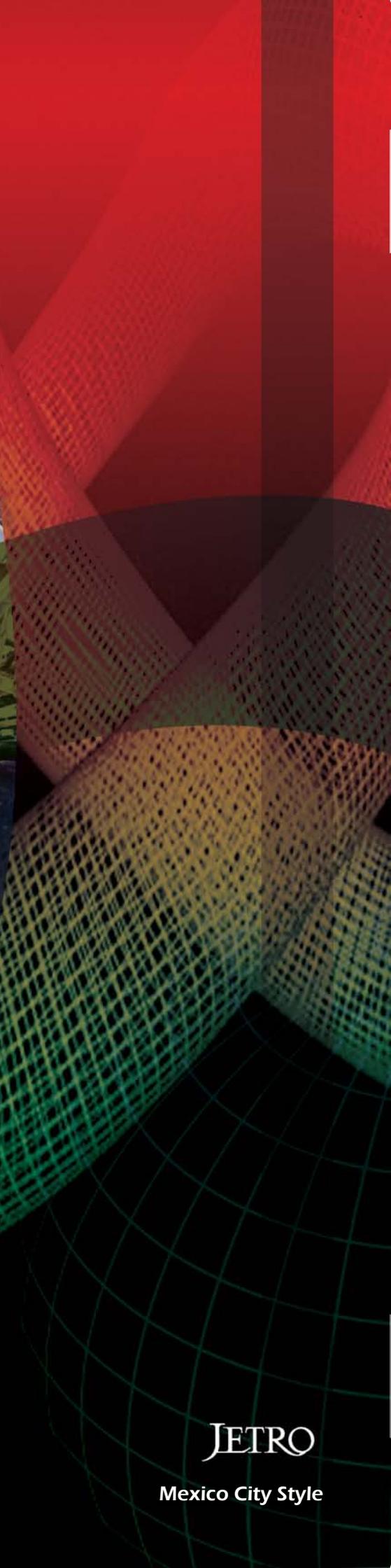




Mexico City Style

JETRO

Copyright © 2011 JETRO. All rights reserved.



メキシコシティのライフスタイル 「メキシコシティ・スタイル」のご紹介

メキシコは1億1,000万人を超える人口を有し、2009年の名目GDP総額は世界14位である。国内市場規模でも民間消費はロシアやインドにはほぼ匹敵し、ブラジルとともにラテンアメリカを代表する新興国である。

メキシコシティの人口は2010年央の国勢調査暫定値で887万人。周辺市町村を含めたメキシコ市首都圏でみると2,000万人を超える。中南米地域ではサンパウロと並ぶ大都市であり、メキシコの政治、経済、社会、文化の中心地である。メキシコ資本の大手財閥や外資系企業の本社が集まり、メキシコ進出日系企業約350社のうち約120社がメキシコシティに進出している。

広大なメキシコ市首都圏は、ユネスコの世界文化遺産に指定されている歴史地区からアメリカの都市を思わせる新興オフィス街サンタフェ地区などバラエティーに富んだ地区が混在している。大都市ならではの利便性があり、商業施設や娯楽施設も豊富だ。2009年にドイツ系市場調査会社に世界第4位のグルメ都市と評価された食文化の豊かな街で、伝統的なメキシコ料理を出すレストランのほか、イタリア、スペインなどの西洋料理店、アルゼンチン風ステーキ・レストラン、日本食レストランなども豊富だ。

「メキシコシティ・スタイル」は、「衣」、「食」、「住」、「余暇」、「ライフスタイル」の5つの側面において、現在のメキシコシティを豊富な写真を使ってビジュアルに紹介する。今後メキシコに進出する企業の方々、日本からメキシコシティに出張で訪れるビジネスパーソンの方々などに、メキシコシティの今を知る上で役に立てれば幸甚である。

2011年3月
ジェトロ・メキシコセンター







目次

Mexico City at a Glance

メキシコの基礎データ	1
メキシコシティの歴史	2
首都メキシコシティの重要性	3
メキシコ市民の購買力は?	4



Fashion

メキシコシティのファッション	05
メキシコ市民の着こなし	11
ショッピングセンター・モール内の風景	14
市内ショッピング街・店舗の様子	18

Food



メキシコシティの食事情	25
メキシコシティの日本食	31
伝統的メキシコ料理	34
グルメショップ・食料品店・スーパー	35
中央卸売市場	38
レストラン、屋台、軽食堂	40
メキシコの豊富な食材	45

Housing



メキシコシティの住環境	49
各地区の住宅風景・建築物	56
住宅のインテリア・家財道具	65
家具・家電・家庭用品店	69

Leisure



メキシコシティの余暇	71
スポーツ施設の風景	77
サイクリング・ジョギングロード	78
娯楽施設・公園	79
ナイトライフ	83
映画館・博物館	85
観光地・観光バス	87

Life Style



メキシコシティの生活	89
主要交通機関	95
銀行・ホテル・携帯電話・コンビニ	97
祭日・休日の風景	101

メキシコの基礎データ

社会	面積	196万4,375平方Km（日本の5.2倍）
	首都	メキシコ市（連邦区）
	言語	スペイン語
	宗教	キリスト教（ローマ・カトリック）が89.3%
	人口	1億1,132万2,757人（2010年国勢調査暫定値）
	人種構成	混血60.0%、先住民30.0%、白人9.0%、その他1.0%（2000年）
	非識字率	6.9%（2010年）
政治	政体	連邦共和制
	国家元首	フェリペ・カルデロン大統領
	議会制度	2院制（上院128議席、下院500名）
	主要政党 （政権与党はPAN）	制度的革命党（PRI）、国民行動党（PAN）、民主革命党（PRD）、緑の環境党（PVEM）、労働党（PT）
経済	名目GDP額	1兆397億ドル（2010年暫定値, INEGI） 8,828億（2009年暫定値, INEGI） ※両年とも世界第14位
	1人当たりGDP額	8,134ドル（2009年, IMF） 9,243ドル（2010年推計値, IMF）
	通貨	ペソ（1ドル=12.105ペソ, 2011年2月末）
	インフレ率	4.40%（2010年）
	政策金利	4.50%（2011年2月末）
	失業率	5.37%（全国2010年平均）
対日関係	メキシコの対日輸出額	19億2,324万ドル、国別8位（2010年）
	メキシコの対日輸入額	150億1,469万ドル、国別3位（2010年）
	日本の対メキシコ投資額 （在米日系企業経由を除く）	22億6,080万ドル（1999～2010年累計） （対内直接投資受入額の0.9%、国別第8位）
	在留邦人数	6,937名（2010年10月時点） （日系人 1万7,753人：2008年10月時点）
	在日メキシコ人数	約2,000人（2009年末）
	日系法人数	約350社（ジェトロ調べ, 2011年2月）

出所：国立統計地理情報院（INEGI）、経済省、中央銀行、日本外務省、ジェトロ資料など



メキシコシティの歴史

- 1325年：メシカ族がテスココ湖内のサボテンの花が咲く小さな小島で都市建設を開始。アシなどで作ったいかだの上に泥を盛り上げて作った畑「チナンパ」で小島の周辺を囲んでいき、1,000ヘクタールに及ぶ広大な都市を形成していった。都市はテノチティラン（「サボテンの花咲く地」と呼ばれ、25万人以上もの人口を有するまでに発展、16世紀には広大なアステカ帝国の首都となっていた。
- 1519年：スペインの征服者ヘルナン・コルテスがメキシコに到来。幾つかの戦いを経てアステカ軍は1521年8月13日にスペイン軍に完全に敗北。同年、現在のコヨアカン（Coyoacan）地区に市役所を建設。
- 1527年：スペイン政府がメキシコ王立司法院（行政府と司法府を兼ねる）を設置、議長と4名の裁判官、後に1名の副王を配置。初代副王のアントニオ・デ・メンドーサは1535年に着任。副王の配置と同時にメキシコシティはコスタリカ以北のスペイン支配地である「ヌエバ・エスパーニャ副王領」の首都となる。
- 1810年：イダルゴ神父によるスペインからの独立戦争開始。
- 1821年：独立革命軍がスペイン軍に勝利。
- 1824年：メキシコ合衆国連邦議会が「憲法広場（ソカロ）」と周囲8,830平方メートルに及ぶ地区を「連邦区（Distrito Federal）」に指定。初代大統領のグアダルーペ・ビクトリアにより政令でも指定される。1537年にタクバ、タクバヤなど周辺6自治体を連邦区に加える。
- 19世紀半ば～20世紀初：
アメリカ-メキシコ戦争中の1847年にアメリカ軍が市内に侵攻、占拠は5ヵ月に及んだ。1863年にはフランスの武力干渉によって占領され、オーストリア大公マクシミリアンを皇帝とするフランス軍の支配下に入ったが、1867年にフランス軍を撃退、初めての先住民系大統領であるフアレス大統領が市を掌握した。1910年以降のメキシコ革命の動乱時には市街戦の場となった。
- 20世紀：近代的な都市整備が進み、1930～50年にかけて人口が倍増。1968年（東京オリンピックの4年後）には中南米諸国初のオリンピックとなるメキシコシティ・オリンピックを開催。1985年にマグニチュード8.1の大地震がおこり、約3万人が住居をうしない、数千人が死亡する大惨事となった。
- 現在：メキシコ市首都圏合計で2,000万人以上の人口を有する世界でも有数の巨大首都圏となり、毎日約600万台の自動車が通行する交通渋滞の激しい街になっている。そのため、新たな自動車専用道路の建設や地下鉄路線網の整備（現時点で全長200km、毎日420万人の乗客を運搬）、バス専用レーンを用いたメトロ・バス網の整備、トロリーバス網の整備、自転車専用レーンや自転車レンタルスタンドの整備など、交通事情改善に向けたインフラ整備を推進している。



首都メキシコシティの重要性

メキシコシティは国内総生産（GDP）の20%近くを生み出す経済の中心地であるだけでなく、多くの有名大学や研究機関、博物館・美術館等が存在する教育や文化の中心地でもある。首都だけに商業、医療などの各種インフラが整っている。メキシコシティの今をデータで紹介する。

比較項目	全国	メキシコ市(注)	シェア	備考
面積	1,964,375 km ²	1,485 km ²	0.1%	東京23区は622km ²
人口 (2010年暫定値)	11,232 万人	887 万人	7.9%	首都圏では2,014万人、東京23区は884万人、東京都全体は1,305万人
人口密度 (同上)	57.2 人/km ²	5,973 人/km ²	—	東京23区は14,222人/km ²
就業者数 (2010年第3四半期)	4,448 万人	822 万人	18.5%	周辺からの出稼ぎが多く、就業者数は経済活動人口より多い。
国内総生産（GDP） (2008年)	84,814 億ペソ	15,276 億ペソ	18.0%	1ドル=11.1297ペソ（2008年平均、以下2項目も同じ）
鉱工業生産 (2008年)	26,983 億ペソ	2,273 億ペソ	8.4%	鉱工業生産はメキシコ市GDPの約15%
サービス産業生産 (2008年)	54,576 億ペソ	12,992 億ペソ	23.8%	サービス産業はメキシコ市GDPの85%。国内サービス産業の25%弱が集積。
学校の数 (2008年)	236,003 校	9,023 校	3.8%	
大学（大学院含む）の数 (2008年)	1,458 校	101 校	6.9%	首都だけに大学の数は多い。
中学校卒業生数/年 (2008年)	225.6 万人	15.2 万人	6.8%	
大学卒業生数/年 (2008年)	66,933 人	8,820 人	13.2%	他州出身でもメキシコ市の大学を卒業する者も多い。
大学学位取得人口 (2005年)	834.2 万人	130.8 万人	15.7%	人口に占める大学卒割合が国内で最も高い。
病院・診療所の数 (2008年)	21,334 箇所	584 箇所	2.7%	人口を考えれば病院数は多くないが、大規模な病院が多い。
医者の数 (2008年)	181,639 人	23,898 人	13.2%	
公設市場の数 (2008年)	2,354 箇所	318 箇所	13.5%	
露天市の数 (2008年)	5,734 箇所	1,449 箇所	25.3%	近代都市だが伝統的な露天市も多い。
ウォルマートの店舗数 (2010年11月)	2,115 店	650 店	30.7%	レストラン店舗（VIPs）を含む。
銀行の支店数 (2010年9月末)	11,380 支店	1,833 支店	16.1%	金融インフラは充実。
キャッシュ・イェンサー数 (2010年9月末)	35,639 台	5,803 台	16.3%	
住宅の数 (2010年暫定値)	2,861.8 万戸	246.3 万戸	8.6%	
1世帯当たり構成員数 (2005年)	4.2 人/戸	3.8 人/戸	-	大都市だけあって核家族化が進む。
児童遊戯施設の数 (2008年)	4,034 箇所	482 箇所	11.9%	

(注) 「連邦区」(Distrito Federal) のデータであり、周辺市町村を含む「メキシコ市首都圏」ではない。

(出所) 国立統計地理情報院 (INEGI), 国家銀行証券委員会 (CNBV) 発表データなどから作成



メキシコ市民の購買力は？

メキシコの消費者の特徴は所得格差が大きいことだ。個人所得税の累進税率が富裕層に有利になっていること、相続税がないことなど効率的な所得分配政策が欠如しており、独立から200年を経ても経済社会階層間の隔たりが大きい。したがって、同じものが同じやり方で全ての層に売れるわけではなく、所得階層別に売れるものと売する方法を変える「階層別マーケティング」がメキシコ市場で成功をおさめるためのカギとなる。

経済社会階層別の構成比をみると、通常は人口が多い都市部の方が農村部より富裕層は多くなるが、メキシコシティは巨大な首都であり、貧しい地方農村からの出稼ぎも多いため、グアダラハラやモンテレイなど他の大都市より貧しい層の割合が高い。

社会経済階層別世帯構成 (2008年, 平均所得のみ2005年のデータ)

階層	メキシコ市 首都圏	グアダラハラ	モンテレイ	人口40万 ～250万	人口5万 ～40万	全国	平均所得
A/B 富裕層	6.1%	9.8%	8.8%	7.8%	5.9%	7.2%	7,800～
C+ 準富裕層	12.2% ¹	5.9%	16.7% ¹	5.1%	13.1% ¹	4.0%	3,212～7,800
C1 中間層	6.4%	21.0% ²	0.2%	18.9% ¹	6.0%	17.9% ¹	,064～3,212
D+ 中間層	38.2% ³	7.1%	35.0% ³	3.9%	35.1% ³	5.8%	624～1,064
D/E 貧困層	27.1% ¹	6.3%	19.4% ²	4.2%	29.7% ²	5.0%	0～624

(注) AMAIの階層分類は所得水準ではなく、世帯の経済的社会的特性に関する10の質問項目に対する回答内容に基づきポイント分類している。したがって所得水準はあくまで目安に過ぎない。

平均所得はペソ建てのオリジナルデータ(2005年)を期中平均レートでドル換算した。

(出所) メキシコ市場・世論調査機関協会 (AMAI)

耐久消費財等の普及率でみると、都市部だけあってほとんどの商品とサービスについて普及率が全国平均より高い。自動車の普及率は農村部で利用されるピックアップ・トラックなどの普及率が低いいため全国水準より低い。乗用車の普及率だけでみるとかなり高い。

耐久消費財・サービス等世帯普及率 (2008年)
(単位: %)

商品・サービス名	メキシコ市	全国
自動車	41.0	43.6
うち乗用車	37.1	28.5
テレビ	98.9	93.1
オーディオ機器	92.1	83.0
DVDプレーヤー	75.4	55.8
ミキサー	95.6	82.9
電子レンジ	62.5	43.5
冷蔵庫	93.1	82.8
洗濯機	61.1	53.2
アイロン	95.3	84.0
電気掃除機	17.9	8.4
パソコン	38.5	23.8
ビデオゲーム機	20.2	12.6
クレジットカード	28.8	19.4
固定電話	72.5	46.4
携帯電話	67.5	56.9
ケーブル・衛星テレビ	26.5	25.1
インターネット	24.1	14.5

(出所) INEGI 「家計調査 (ENIGH) 2008」



Fashion





メキシコシティのファッション

メキシコシティはメキシコ国内の流行の中心地であり、近年、大型ショッピングセンターやデパートの建設が進み、ライフスタイルの急速な近代化がみられている。

1990年代以降の自由貿易協定（FTA）ネットワークの拡大と一般関税率の引き下げにより、アパレル産業では輸出と輸入が双方向で拡大し、メキシコ製衣類の対米輸出拡大に加え、世界中で生産された衣類がメキシコ国内にも流入するようになった。欧米の有名ブランドのほとんどはメキシコに進出しており、ショッピングセンター内や市内ポランコ（Polanco）地区のマサリク（Masaryk）通りにあるブティック街などに店舗を構えている。

メキシコシティではスペインのブランド

「ZARA」が比較的人気がある。ZARAは新しく建設されたショッピングセンターならほとんどどこにでも店舗を構えている。高級ブランドではないため、富裕層でなくても購入可能な価格帯が幅広い消費者層にうけている。

メキシコの国内ブランドはそれほど強くないが、グアナファト州レオン市を中心に皮革・履物産業の集積があるため、革靴の国内ブランドはいくつか存在する。「Hush Puppies」や「CAT」のOEM生産を手掛ける「Emiko」

（自らもEmikoブランドを展開）、Cole HaanのOEM生産を手掛ける「Quirelli」（同上）、カジュアルスタイルの革靴を得意とする「Flexi」などが代表的なブランドだ。メキシコ独特のデザインとしては、1995年にクリスティーナ・コバリン（Cristina Covalin）が創設した「Pineda Covalin」（<http://www.pinedacovalin.com/>）が有名であり、スペイン人到来前（Prehispanic）の先住民芸術と現代芸術をミックスさせた独特のデザインが特徴的である。Pineda Covalinのデザインを用いたネクタイやスカーフなどは市内の専門店に加え、メキシコ市国際空港内の店舗でもお土産物として売られている。

メキシコシティのショッピングセンターとデパート

メキシコシティには、サンタフェ（Santa Fe）、ペリスール（Perisur）、パベジョン・ポランコ（Pabellón Polanco）、アンタラ（Antara）など大規模なショッピングセンターが数多く存在する。また、ソナ・ロサ（Zona Rosa）地区やポランコ（Polanco）地区はショッピング街として有名であり、特にポランコ地区のマサリク通りは「Louis Vuitton」、「Chanel」、「Bulgari」、「Hermes」など著名なブランドショップが連なるブティック街となっている。

サンタフェ・ショッピングセンターは、国内でも最も大きく、充実したショッピングセンターである。5,000台の収容能力を誇る駐車場を有するため、市内の各地から多くの買い物客が訪れる。4つのデパート（Palacio de Hierro, Liverpool, Sacks Fifth Avenue, Sanborns）と300の専門店があり、アルゼンチン料理、イタリア料理など様々なレストランもある。ゴルフ練習場や映画館、子供向けアトラクションパーク「Kizzania」なども備えている。

現在、メキシコシティには大規模なショッピングセンターが約30カ所存在し、ショッピングセンター内には有名デパートが入っていることが多い。



メキシコシティの代表的なショッピングセンター一覧

中心街 (Centro)	中南部 (Centro Sur)
Parque Alameda Plaza Insurgentes Reforma 222 Pabellón Cuauhtémoc Plaza La Rosa	Plaza World Trade Center Centro Comercial Parque Delta Galerías Insurgentes Pabellón del Valle Plaza Universidad Centro Coyoacán

中西部 (Centro Poniente)	南部 (Sur)
Plaza Moliere 222 Pabellón Polanco Plaza Galerías Antara Polanco	Perisur Plaza Cuicuilco Centro Comercial Gran Sur Pabellón Altavista Plaza Inn Galerías Coapa Plaza Loreto

西部 (Poniente)	北部 (Norte)
Centro Comercial Santa Fé Parque Duraznos Centro Comercial Interlomas Magnocentro26	Plaza Lindavista

メキシコのデパートには、全国展開している全国チェーンとある一定地域でのみ展開している地方チェーンがある。全国展開している主なデパートは内資系のパラシオ・デ・イエロ (El Palacio de Hierro: 「鉄の宮殿」の意) とリベルプール (Liverpool)、米系のシアーズ (SEARS) である。ウォルマートなどハイパーマーケットタイプのスーパーは、日用品に加えて衣料や家電なども販売しているが、デパートは主に高所得層向け、スーパーは中低所得層向けの販売チャネルとなっており、品揃えやディスプレイはかなり異なる。

El Palacio de Hierroは、メキシコ第2の保険会社GNPや大手鉱山開発会社のペニョーレス (Industrias Peñoles) などを統合する企業グループであるGrupo BALの傘下にある。1891年にメキシコシティに1号店を開店した歴史ある企業であり、メキシコで最も高級なデパートとされる。店舗数は2009年末時点合計15店舗、そのうち総合デパートが10店舗、アウトレットが2店舗、家具などの家庭用品専門店が2店舗、直営ブティックが1店舗である。また、ショッピングセンターも2カ所経営している。高級チェーンのため、購買力の高い首都圏に店舗が集中しており、全売上に占める首都圏の割合は90%を超える。

Liverpoolは18世紀にフランスの商人が欧州 (イギリスのLiverpool港で船積み) からの輸入品をメキシコで販売するビジネスを開始したのが始まり。1936年にデパートとしての第1号店がオープン。商売を開始したのはフランス人だが、会社としてはメキシコ100%資本である。El Palacio de Hierroに次ぐ高級店だが、地方への店舗展開はPalacioより進んでいる。2009年末時点で79のデパートと16のショッピングセンターを経営している。



79のデパートのうち51店舗がLiverpoolブランドであり、23店舗はファブリカ・デ・フランシア（Fábrica de Francia）という高級店、残り4店舗は空港等の免税店である。

SEARSは米系小売大手SEARS Roebuck and Co. のメキシコ法人。1947年にメキシコ市に1号店がオープンした。1997年に世界第2の富豪カルロス・スリム氏の財団Grupo CarsoがSEARSメキシコの株式60%を取得したことでGrupo Carsoの小売部門Grupo Sanborns傘下となるが、SEARSの名称は保持している。2010年末時点で国内に72店舗を有する。

メキシコの3大デパート概要（2009年末時点）

	El Palacio de Hierro	Liverpool	SEARS
開業年	1891年	1936年	1947年
店舗数(店)	15	79	72
従業員数(人)	9,370	40,000	N.A.
売上高(100万ペソ)	13,865	47,004	17,132

(出所) 各社年次報告からジェトロ作成

メキシコシティの気候とファッション

メキシコ市は北緯19度に位置し、アジアの都市ではベトナムのハノイと同様の緯度である。本来であれば熱帯性の気候であるが、標高が2,200メートルもあるために比較的涼しく、夏というよりは春のような気候が一年中続く。日本のような明確な四季はなく、4月下旬～10月までの雨季（夕方に1時間ほどスコールのような雨が降る）と11月～4月中旬までの乾季（雨はほとんど降らない）に分かれる。標高が高く、基本的に乾燥しているため、朝晩の温度差は大きく、最高気温と最低気温の間には10～15度の開きがある。

このような気候のため、メキシコシティのファッションには明確な季節感がない。11月末～1月にかけて比較的寒冷的な気候となるため、デパートなどでは冬物の衣類が売られているが、1月でも昼間は半袖のシャツを着ている人を見かけることが珍しくない。また、朝晩は比較的冷え込むため、8月でも朝は革ジャンを着ている人を良く見かける。メキシコ市で便利なファッションといえば、革ジャンなどの厚手の上着の下にTシャツなどの涼しい衣服を着るスタイルで、比較的涼しい朝晩は上着をはおり、気温が高い昼間は上着を脱いでTシャツ姿になるというように容易に体温調節ができる着こなしである。また、グアナフアト州やグアダラハラ州などに伝統的な皮革産業が存在するため、革を用いたファッションは豊富である。革製のブーツは男性、女性を問わず愛用されている。



メキシコ市民の着こなし。街角における市民のファッションは多彩だ。個性が重視される国民性のため、色彩も様々、デザインも様々である。





休日のファッション。冬でも昼間の気温は20℃を超えるため、昼間は半袖、夜は上着を羽織るとするのが一般的だ。休日の服装として、Tシャツとジーパンが多いというのは日本とあまり変わらない。休日はジョギングやサイクリングなどを楽しむ人も多いため、ジャージ姿の人も比較的多く見かける。





買い物を楽しむメキシコ市民。昨今は環境への配慮からエコバックも浸透しており、スーパーマーケットにエコバックを持って買い物に出かける人を見かけるようになった。なお、正規商店では買い物客に無料でプラスチック製の買い物袋を配るのは禁止されているが、生分解性プラスチックの袋であれば無料配布が許されている。





ショッピングセンター内の風景。メキシコシティには近代的なショッピングセンターが豊富に存在し、国際的なブランドの店舗が連なっているが、残念ながら日本のブランドではSony Styleなどを除いてほとんどない。



高級デパートやショッピングセンター内の風景。近年、ビールとテキーラを好むメキシコでも高所得層を中心にワインを楽しむ人口が増えており、高級デパートにはワインや洋酒を扱う店が必ずある。メキシコ産ワインのレベルも上がりつつあるが、まだ生産量が少ないこともあり、チリワインなど他の新世界ワインに比べると割高な印象を受ける。赤ワインの人気の方が高く、レストランなどでは料理が魚介類でも赤ワインを頼んでいるメキシコ市民を良く見かける。



ショッピングモール内の小規模スタンド。時計やサングラス、アクセサリなどのスタンドが多い。





ポランコ地区に2006年5月にオープンした新しいショッピングセンター。富裕層が多い地区だけあって高級ブランド店が目白押し。映画館など娯楽施設に加え、オフィスビルも併設された複合施設であり、日本食レストランなどの高級レストランもある。





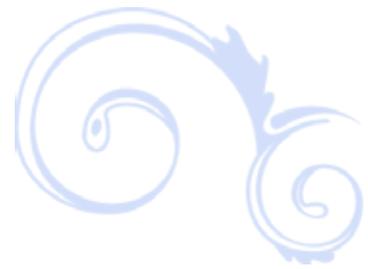
メキシコ市民もファッション雑誌が大好き。街角のキオスクではテレビや芸能雑誌と並び、ファッション雑誌が多く並べられている。メキシコでもスペインのアパレルブランドの「Zara」は人気だ。比較的手軽な値段が中所得層の顧客を引き付けている。

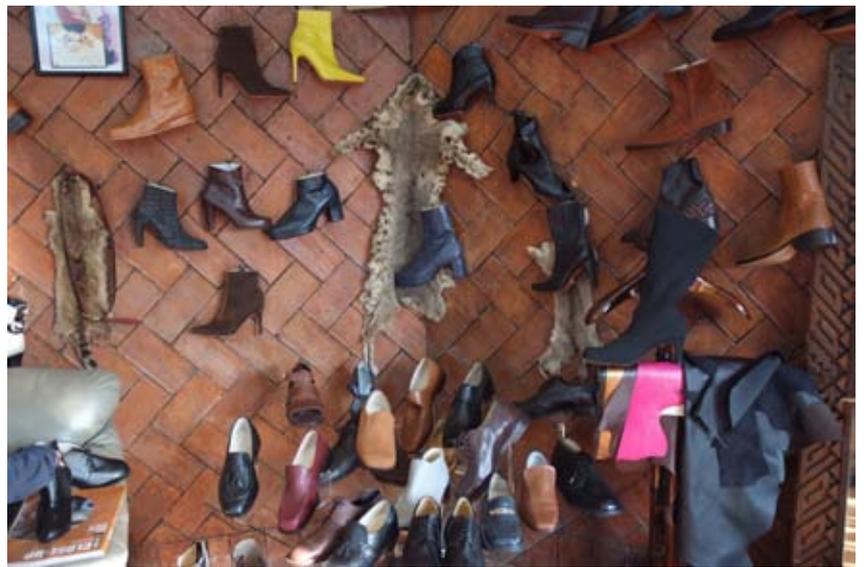




メキシコシティのパーティー衣装。
 メキシコでもウェディングドレスは基本的に純白、結婚式に参加する家族は紫の衣装を着ることが多い。なお、女性が15歳の誕生日を迎えたときには「キンセアニューラ (Quinceañera)」というお祝いをするのが一般的で、15歳になった女子は色の付いたドレスを着てパーティーを行う。

歴史地区（Centro Histórico）にあるショッピング街。昨今は歴史地区の治安が改善されたこともあり、週末には多くの買い物客で賑わう。

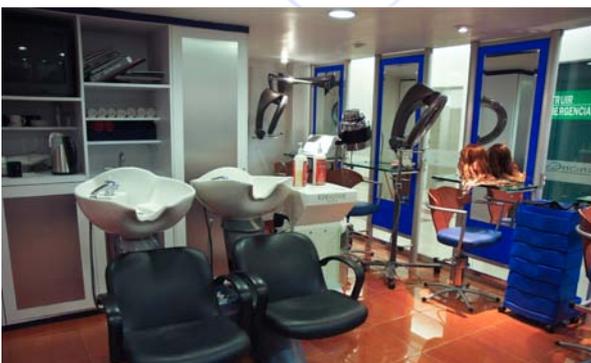
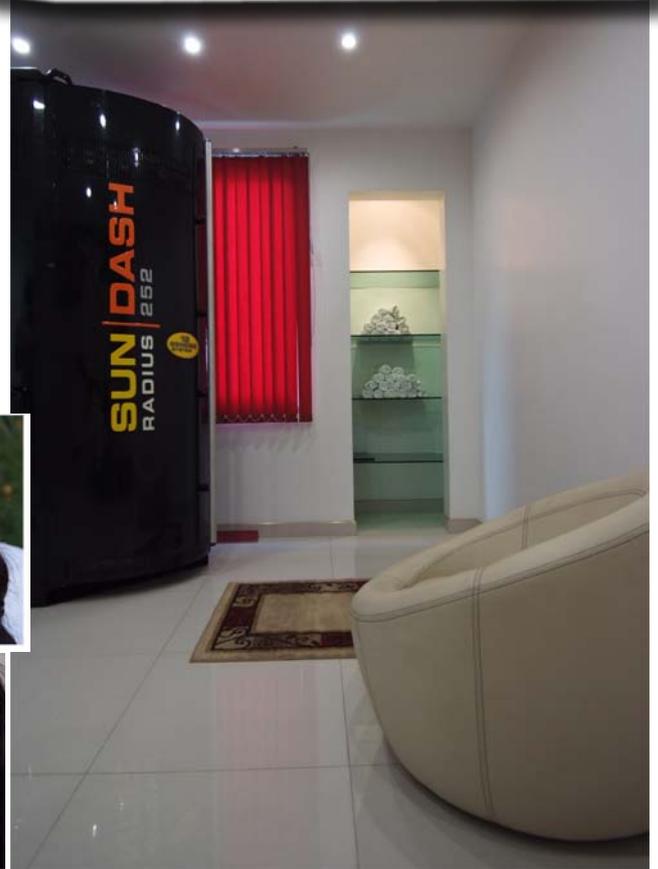
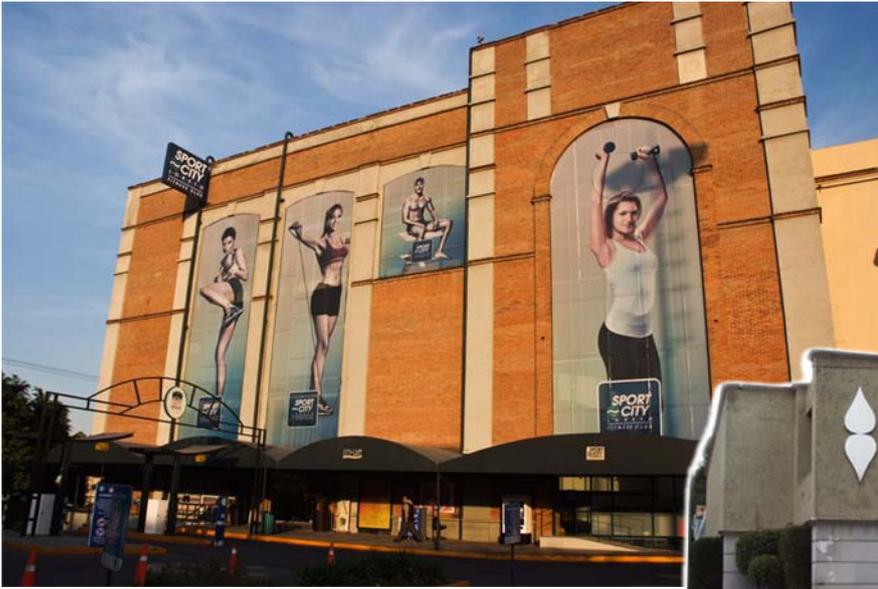




伝統的な衣料品店の風景。メキシコには革の文化があり、革靴や革ジャンなどを販売する店が多い。また、先住民の伝統を受け継いだ民族衣装も売られており、土曜日に開催されることが多い市内各地の青空市場では伝統工芸品を売る出店が出る。



女性を中心に美容への関心が高まっており、高所得層を中心にスパやマッサージなどに対する関心が高まっている。また、自然・天然志向も少しずつ広がりつつあり、天然素材のみを用いた化粧品や洗剤などを扱う店も増えている。



歴史地区の宝飾品専門店。歴史地区には金や銀などの貴金属を用いた宝飾品や時計を扱う店が多い。







食

Food





世界無形文化遺産となったメキシコ料理

2010年11月、メキシコの伝統料理は国際連合教育科学文化機構（ユネスコ）の世界無形文化遺産に登録された。登録の決め手となったのは、①料理文化の古さ、②古代からの継続性、③料理や食材のオリジナリティー、④料理法、などである。先住民の伝統が残るメキシコ料理は多彩であり、多数の唐辛子とチョコレートを用いた「モーレ」ソースなど手の込んだ料理が存在する。食材は豊富であり、主食のトウモロコシはメキシコ原産であるほか、多様な唐辛子（チリ）とトマト、アボカド、カカオ、バニラなどメキシコ由来の食材が様々な料理に活用されている。日本に輸出されている食材も多い。日本で流通しているライムやアボカドの9割以上がメキシコ産であり、メキシコはフィリピンを上回るマンゴの最大の対日輸出国である。カボチャやアスパラガスなどの野菜も対日輸出されている。魚介類ではエビやタコ、ウニのほか、バハ・カリフォルニア州エンセナーダ湾で畜養された寿司ネタ用のクロマグロも対日輸出されている。

料理には地方性があり、全国で鶏肉は食されるが、北部では牛肉や子ヤギの肉などが好まれ、中央高原では羊の肉が朝食などに用いられる。ユカタン半島では豚肉料理が豊富だ。牛のハラミを薄く切って焼く「アラチェラ（Arrachera）」（この頁下の写真）という料理はメキシコ独特の牛肉料理である。また、ベラクルス州など海岸地帯では新鮮なエビや魚を使った料理が多く、バハ・カリフォルニア州では伊勢海老をお手頃価格で楽しめる。

メキシコシティの食事情

2009年7月に発表された「Anholt-Gfk Roper City Brands Index」によると、メキシコシティはパリ、ローマ、東京に次いで世界第4位のグルメ都市に選ばれた。同調査は世界20カ国で10,000人に対して行われた都市の様々な要素に関する魅力度調査であり、その中の食事を楽しむ都市のランキングで第4位に選ばれたのである。国際的都市であり、外国料理のレストランも多い。最も多いのはイタリアンだが、スペイン料理、アルゼンチン料理、日本料理も多い。最近では、アルゼンチン風ステーキを食べさせるレストランが増えている。アルゼンチン風といっても、動物検疫（口蹄疫）の観点からアルゼンチン産牛肉は輸入できない。そのため、米国産の肉かソノラ州など北部諸州の国産牛が用いられている。

レストランのレベルは年々上昇しており、2010年4月に英国の「Restaurant Magazine」が発表した「The World's 50 Best Restaurants」では、ポランコ地区の創作バス

ク料理店「Biko」が第46位にランクインした。上位100位まで広げると、同じくポランコ地区の創作メキシコ料理「Pujol」が72位にランクインしている。BikoはMikel AlonsoとBruno Oteizaがシェフを務めるレストランで、2008年（89位）と2009年（81位）にも上位100位以内に入っていた。伝統的なバスク料理にメキシコ料理のテイストを取り入れた多彩で繊細な料理が評価されている。



日本食の普及も進んでいる。メキシコシティだけで150店舗以上の日本料理店があるが、伝統的な日本食よりも「Sushi Itto」などメキシコ風にアレンジされた巻き寿司チェーンが多い。提供する寿司はカリフォルニアロールなどが中心で、寿司でありながら衣をつけて揚げてあるもの、チリソースをかけたもの、マンゴやキウイフルーツを使ったものなど、寿司と呼んでいいのか悩むものもある。日本のサントリーが経営するレストラン、日航ホテルが経営するレストラン、日系人が経営するレストランなど、伝統的な日本料理を提供するレストランもあり、これらの店でも純粋なメキシコ人の来客が多い。

高級レストランが多いメキシコシティだが、庶民的な大衆街角レストラン、タコスなどの屋台も豊富に存在する。街角レストランではお昼の定食（Comida Corrida）が安くて便利である。前菜やスープ、メイン、デザートまで含まれており、安い店なら30ペソ（約200円）前後で食べられる。トウモロコシ粉をこねてシート状にしたトルティージャに様々なものを包んで食べる庶民の味方、タコスにも豊富な種類が存在する。牛肉、豚肉、鶏肉など肉の種類だけでなく、耳や舌、目、内臓など動物の様々な部位が具材として用いられる。代表的なタコスといえば、豚や牛のバラ肉を薄くスライスして塊にし、ドネルケバブのように回転させながら焼いた「タコス・アル・パストール（Tacos al Pastor）」（P. 34の写真）が挙げられる。通常のタコスよりも小さなトルティージャを用い、肉の上にコリアンダーとタマネギのみじん切り、パイナップルスライスを載せて食べるのが一般的だ。

食材調達の実況 ～スーパーマーケット、公設市場、青空市場～

急速な都市化と近代化のプロセスを経て、メキシコシティの食材調達の主役は従来の伝統的な公設市場や青空市場、街角の小売商店などから近代的なスーパーマーケットに移りつつある。メキシコ市経済開発省（SEDECO-DF）によると、市民の買い物需要の52%をスーパーマーケットが満たしている。スーパーマーケット・チェーンは対象購買層や立地にに応じて店舗形態と品揃えを変えている。最大の勢力を誇る米系ウォルマートでみると、高級住宅地では「Superama」という名の中小規模で比較的高価格な品揃えのスーパー、中間層向けには大規模ハイパーマーケット型の「Wal-Mart Supercenter」、低所得層向けには低価格の品揃えで倉庫型の店舗形態をとる「Bodega Aurrera」を展開している。さらに、中所得層以上をターゲットとした会員製ディスカウントショップ「Sam's Club」も運営する。

ウォルマートは近年、低所得層の開拓に積極的だ。低所得層向けの「Bodega Aurrera」を小型化した「小規模安売り倉庫」のイメージの「Mi Bodega」や「Bodega Aurrera Express」といった低所得層向けの小型スーパーを積極的に開設し、従来は公設市場や街角の小売商店に通っていた貧困層を顧客に取り込んでいる。ウォルマートは深刻な不況に見舞われた2009年にも275の新規店舗を開設したが、そのうち246店舗が低所得層向けの「Bodega」ブランドの店である。これらの店では店舗装飾や陳列経費などを可能な限り削減し、低所得層にとっても魅力的な価格を実現している。



大手スーパーマーケットチェーン概要

(金額単位 :100万ペソ)

企業名/特徴	比較項目	2007年	2008年	2009年
Walmart Mexico (米系) <2009年市場シェア 58% > 2000年以降急速に勢力拡大、 国内シェア4割以上。	店舗数	1,027	1,204	1,472
	従業員	157,432	170,014	176,463
	売上高	219,714	244,029	269,397
	営業利益	18,323	19,751	22,268
	純利益	13,962	14,673	16,806
Soriana (内資系) <2009年市場シェア 20% > 北部に強い。2007年末のGigante買収 で中央に勢力拡大。	店舗数	257	465	471
	従業員	63,500	93,700	76,800
	売上高	65,191	91,921	88,637
	営業利益	4,303	4,198	4,584
	純利益	3,135	1,723	2,868
Comercial Mexicana (内資系) <2009年市場シェア :12% > 08年為替レバレッジで大損、 会社更生法を適用して再建中。	店舗数	285	310	304
	従業員	40,484	40,172	39,190
	売上高	50,409	53,298	54,893
	営業利益	3,215	3,004	2,802
	純利益	2,535	△ 8,587	345
Gigante (内資系) 業績不振が続く2007年末にスーパ-部門 の大半をSorianaに売却。	店舗数	627	400	573
	従業員	34,811	12,356	12,437
	売上高	6,834	8,385	9,518
	営業利益	552	1,015	972
	純利益	4,730	2,811	813
Chedraui (内資系) <2009年市場シェア :12% > ハラカスの地方スーパ-だが、2005年の カルフル店舗買収で中央進出。	店舗数	112	139	146
	従業員	NA	25,000	30,635
	売上高	34,452	40,658	47,901
	営業利益	1,742	1,864	2,487
	純利益	539	914	1,394

(注) 店舗数は国内店舗のみでレストランも含む。市場シェアはスーパーマーケット部門のもので、GiganteのディスカウントショップであるSuper Precioを除く。

(出所) 各社ウェブサイト、年次報告書などから作成

スーパーマーケットの全国的な普及に伴い、生産者から小売チェーンの物流センターを経由して販売店舗に効率的に商品が運ばれる近代的流通ネットワークが整備されつつあるが、生鮮食品の分野においては依然として伝統的流通・販売網が存在する。中央卸売市場、公設市場、「ティアンギス」と呼ばれる青空市場、街角食品雑貨店などである。全国中央卸売市場販売業者組合連合会 (CONACCA) のデータによると、2008年に全国38%の消費者が公設市場で生鮮野菜・果実を調達しており、16%がティアンギス、12%が街角の食料雑貨店 (Abarroteria) で調達している。スーパーは25%に過ぎない。生鮮野菜・果実についてはメキシコ市民でも8割が公設市場やティアンギスで調達、スーパーは2割に過ぎない。市民が生鮮品の調達において公設市場やティアンギスを選ぶ理由は、「価格の安さ」と「新鮮さ」である。「何故そこで生鮮果実を買うのか」という問いに対し、「価格が安いから」と答えた消費者は、公設市場で39.0%、ティアンギスで59.1%に達する。「新鮮だから」と答えた消費者は、公設市場で34.0%、ティアンギスで28.6%に達する。

メキシコシティには
箇所あるティアンギス
植物、家具、民芸品など様々

318 箇所の公設市場と1,145箇所のティアンギスが存在する。1,145
では合計約25 万人の商人が、野菜、果実、食肉、衣類、雑貨、観葉
な商品を販売している。



メキシコシティでも日本食の人気が高まっている。伝統的な日本食を出すレストランもあるが、最も広く普及しているのは、「Sushi Itto」などメキシコ風にアレンジされた巻き寿司レストランである。ショッピングセンター内のファーストフードコートにも巻き寿司の店はほぼ必ずあり、唐辛子を使ったメキシコ風の巻き寿司もある。





焼き鳥、串焼きで有名な伝統的日本食レストランの店舗内。店内装飾として用いられている本物の鎧かぶとが特徴的。





伝統的家庭料理を提供する日系人経営の日本食レストラン。ワールドトレードセンターの近くでメキシコ人ビジネスマンの来客も多い。





伝統的なメキシコ料理の数々。左上の写真は豚肉や鶏肉を野菜やトウモロコシやアボカドなどと煮込んだスープ料理のポゾレ (Pozole)、右上は牛肉料理の「アラチェラ (Arrachera)」、中段左は独立記念日に食べる国旗の色をした「チレス・エン・ノガーダ (Chiles en Nogada)」で、大きなチリ (ポブラーノ種) の中にフルーツやくるみなどと一緒調理した挽肉を詰め、国旗色を施すためにナッツクリームをかけてザクロの実を散らしている。中段右はプエブラの伝統料理であるモーレ (Mole) で、多数の香辛料を混ぜて作ったチョコレートソース (モーレソース) を鶏肉にかけている。下段左の写真はベラクルス風魚料理 (Pescado a la Veracruzana) で、右下は庶民の味方、タコス・アル・パストール (Tacos al Pastor) 。



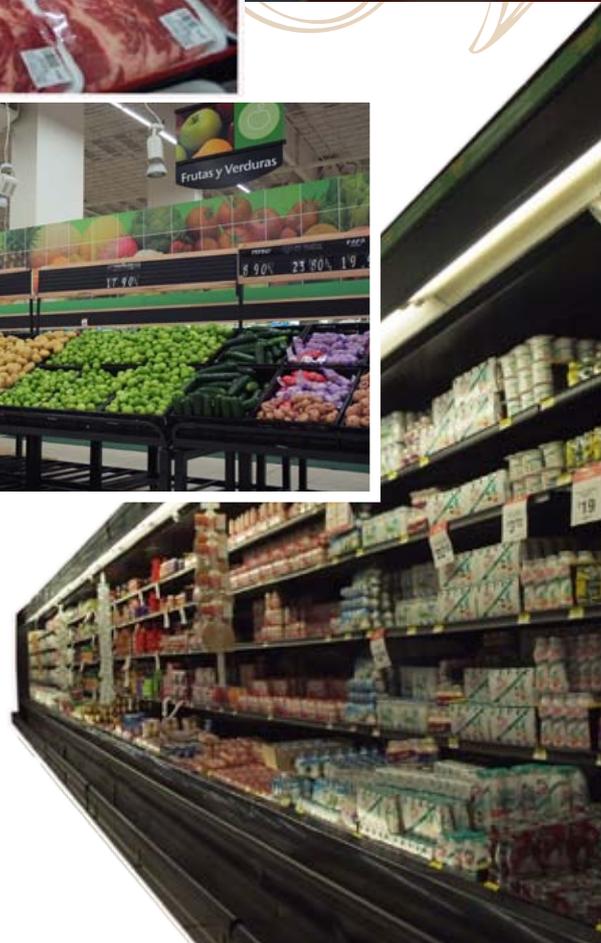


最近増えているワインショップでは、ワインのほか、チーズやハムなどを扱うグルメショップとなっていることが多い。お惣菜を扱う店も増えてきており、中にはオリエンタルテイストのお惣菜を扱う店もある。



大衆的な街角食料雑貨店や市場内の食料品売り場風景。乾物や食用油、ソース、穀物、豆類などが売られている。

近代的なスーパーマーケット内の風景。食肉はパック詰めされて売られているが、日本と比べるとサイズが大きい。また、大きく切り分けられていて、細かく切り分けられていない。ただし、ショーケース近くにあるサービスカウンターでパック内の肉の個数を少なくしたり、皮や骨を取り除いたりする個別依頼は可能。また、自分が欲しい量を図ってリパックしてもらうことも可能。





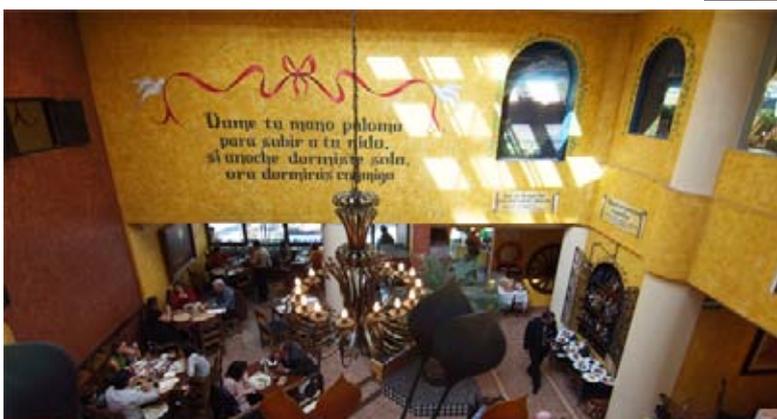
メキシコ市中央卸売市場内の魚市場の風景。メキシコ近海ではマグロ（キハダ）が獲れるほか、鯛類の魚の漁獲が多い。スズキやヒラメ類などの白身魚も種類が豊富。なお、ハマチやサンマは獲れないため、日本食レストランなど向けには日本から輸入されている。





中央卸売市場内の食肉、野菜市場風景。中央卸売市場で売られている食材は豊富で値段も安い。基本的には卸売りのため、数キロの単位で購入することになる。右下の小判状の野菜はとげを抜いた団扇サボテンの葉であり、メキシコでは焼いてお肉の付け合わせにしたり、サラダにしたりして食べる。





伝統的なメキシコ料理を提供するレストランの「ビジャ・マリア (Villa María)」。市内に2店舗あり、雰囲気割には値段がお手頃。ポランコ店はマリアッチの生演奏が毎晩あり、マリアッチのレベルも高い。ただし、店内はかなり騒がしいので、ビジネスには向かない。



インター
ナショナルなメキ
シコシテ
ィーでは中華料理やイタリア料理、アルゼンチン
料理など世界各国の料理が楽しめる。ポランコ地
区などにはレバノンやシリアなどの移民も多いた
め、中東料理のレストランもある。

国際的なコンデサ地区のレストラン街。様々な国のレストランがある。メキシコにも米国ベニハナ（Benihana）風の鉄板焼きレストランが多く、「日本料理」として扱われている。





庶民の味方、街角の軽食屋
 台。タコスやハンバーガ
 ー、パンにお肉や野菜を
 はさんで食べる「トルタ
 (Torta)」などが多い。
 一般的に安くて美味しい



が、決して衛生的とは
 言えないので慣れない
 旅行者にはお勧め
 できない。

公設市場内の食堂。市場の新鮮な食材を使った料理を提供する店が多い。レストランと比べると衛生的とは言えないが、安くて美味しい。



歴史地区にあるサンファン（San Juan）公設市場の風景。扱っている食材の種類は非常に豊富で、シカ、ワニ、イノシシ、ダチョウの肉など珍獣の肉も扱っている。





メキシコで売られている果物と野菜。種類は非常に豊富で値段も安い。唐辛子の原産国であるため、唐辛子の種類は限りなくある。



市場内の花や薬草、
香辛料などの売り
場。右上の写真のポ
インセチアはメキシ
コ原産と言われ、メ
キシコではクリスマ
スイブの意味で「ノ
チェ・ブエナ



（Noche Buena）」
と呼ばれる。キノコ
類も栽培されてお
り、マッシュルーム
やヒラタケのほか、
季節によってはマ
ツタケも採れる。
薬草・ハーブは香
辛料として用いら
れるほか、先住民
が行う宗教的儀式
や民間医療にも用
いられている。







住

Housing

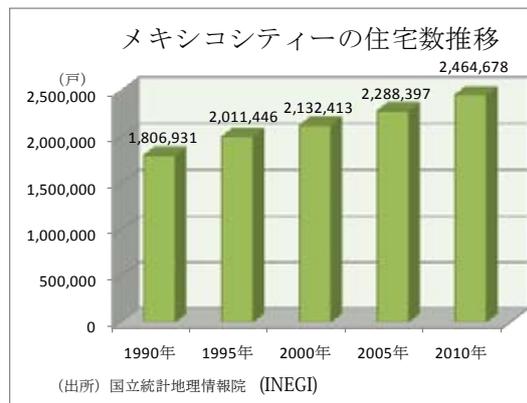




メキシコシティの住環境

メキシコシティの人口は2010年央の国勢調査暫定値で887万3,017人。周辺市町村を含めた首都圏でみると人口2,000万人を超える大都市圏である。急速な都市化の流れの中で人口は増加を続け、それに伴い住宅戸数も増加している。2010年央時点の住宅戸数は246万2,678戸であり、20年前（1990年）と比べると36.3%増加している。

人口密度は地域に応じて様々だが、低所得層が多い北部や東部、伝統的な中心部で高く、南部や西部では比較的低い。メキシコシティ全域で平均すると1平方キロメートル当たり5,963.8人であり、東京23区（1万4,222人）と比べるとかなり低いが、最も人口密度が高いイスタカルコ（Iztacalco）行政区の人口密度は1万6,575.1人であり、東京23区平均よりも高くなる。



各地域の特徴

20世紀の急速な都市化の流れの中で地方から首都メキシコシティに流入した人々は、主に市の周辺部に住み着き、メキシコシティの特に東部と北部に居住地域を拡大させていった。しかし、1990年頃から本格化した都市再開発では、金融センター、ビジネスセンター、大学都市といった経済・社会活動の特定分野を意識した都市計画が進められたため、周辺部が低所得層の住む地域という従来の特徴は、現在では必ずしも当てはまらない。この意味で特に印象的なのは、メキシコシティ南西部のクアヒマルパ

(Cuajimalpa) 行政区とアルバロ・オブregon (Álvaro Obregón) 行政区にまたがるサンタフェ (Santa Fe) 地区の存在である。以前は街外れのゴミ捨て場であったところだが、現在は米国の近代都市を思わせるような新興オフィス街となっている。

メキシコシティの行政区別人口、人口密度、住宅戸数

行政区名	代表的なColonia, Barrio	人口		人口密度	住宅戸数	
		人口	構成比	人/km ²	戸	構成比
Iztapalapa	San Miguel Teotongo, Cerro de la Estrella	1,815,596	20.5	16,029.3	460,662	18.7
Gustavo A. Madero	Aragón la Villa, Linda Vista, Tepeyac	1,184,099	13.3	13,470.0	320,210	13.0
Álvaro Obregón	San Ángel, Chimalistac, Santa Fe	729,193	8.2	7,583.2	198,647	8.1
Tlalpan	Pedregal, Centro Tlalpan, Peña Pobre	651,839	7.3	2,099.9	176,801	7.2
Coyoacán	La Concepción, Santa Catarina, Del Carmen	628,420	7.1	11,654.0	183,625	7.5
Cuauhtémoc	Centro, Condesa, Roma, Tlatelolco	539,104	6.1	16,575.1	177,778	7.2
Venustiano Carranza	Pensador Mexicano, Moctezuma, Arenal	430,022	4.8	12,698.7	123,010	5.0
Xochimilco	El Rosario, La Concepción, Santa Cruzita	418,022	4.7	3,536.6	103,629	4.2
Azcapotzalco	U.H. El Rosario, San Marcos Ixquiltán	413,785	4.7	12,343.4	116,948	4.7
Benito Juárez	Del Valle, Portales Sur, Narvarte	389,140	4.4	14,573.8	142,406	5.8
Iztacalco	Agrícola Oriental, Pantitlán, Granjas México	383,421	4.3	16,601.6	104,117	4.2
Miguel Hidalgo	Polanco, Lomas de Chapultepec, Tacubaya	372,050	4.2	8,019.7	119,924	4.9
Tláhuac	San Andrés Mixquic, San Juan Ixtayopan,	361,014	4.1	4,210.2	91,529	3.7
La Magdalena Contreras	San Jerónimo, Santa Teresa, La Concepción	239,595	2.7	3,778.0	63,429	2.6
Cuajimalpa de Morelos	Santa Fe, Bosques de las Lomas, Contadero	187,206	2.1	2,629.1	48,164	2.0
Milpa Alta	Villa Milpa Alta, San Pablo Oztotepec	130,511	1.5	437.6	31,799	1.3
メキシコシティ全体		8,873,017	100.0	5,936.8	2,462,678	100.0

(出所) 国立統計地理情報院 (INEGI) 「2010年国勢調査 (暫定値)」などから作成

メキシコシティは16の「行政区 (Delegación)」に分かれており、行政区は「コロニア」(Colonia) や「バリオ」(Barrio) と呼ばれる数多くの「地区」に分かれている。いくつかのコロニアは複数の行政区にまたがって存在している。メキシコシティを東西南北で大雑把にみると、北部や東部には低所得層の居住地域が多く、中央部には低～中間層、南部や西部には中～高所得層の居住地域が多い。

最も人口が多いのは東部辺境に位置するイスタパラパ (Iztapalapa) 行政区であり、地方から上京して定住した低所得層が多く、人口密度も高い。イスタパラパ行政区の隣には最も人口密度が高いイスタカルコ (Iztacalco) 行政区があり、ここも低所得層が多い。ここには運動施設が集まる「スポーツ都市 (Ciudad Deportiva)」があり、その中にあるスポーツの宮殿 (Palacio de los Deportes) という施設では大規模なコンサートなどが行われる。北部のグスタボAマデーロ (Gustavo A. Madero) 行政区も、地方から移住した低所得層が多い。

人口では第3位のアルバロ・オブregon (Álvaro Obregón) 行政区は南部に位置し、中所得層以上の住民が多い。土曜日に絵画や芸術作品の市場が開かれるサン・アンヘル (San Ángel) 地区などが有名だ。面積が比較的広いため人口密度はそれほど高くない。同じく南部のコヨアカン (Coyoacan) 行政区はスペイン植民地時代に市役所が置かれていた伝統的な地域で、古い町並みも残り、文化的で雰囲気の良いおしゃれな地域である。

中央部のクアウテモク (Cuauhtémoc) 行政区は、歴史地区 (Centro Histórico) や繁華街のソナ・ロサ (Zona Rosa) がある行政区であり、北の方は低～中所得層の住居が多いが、同地区を横切るレフォルマ (Reforma) 大通り周辺は再開発が進み、高所得層向けの複合施設 (住宅と商業施設の複合施設) の建設も進んでいる。レフォルマ大通りは証券取引場や大手銀行のオフィスが多く、金融の中心地となっている。この行政区の南端にはコン

デサ (Condesa) 地区とローマ (Roma) 地区があり、町並みは欧州の雰囲気を持ち、世界各国のおしゃれなレストランが集まる地区となっている。クアウテモク行政区の南に位置するベニート・フアレス (Benito Juárez) 行政区は、ワールドトレードセンターがある伝統的なビジネス街だ。この行政区には古くからメキシコに進出している日系企業の本社があるデルバジエ (Del Valle) 地区があり、日本の駐在員も多く住み、日本食レストランも多い。

中西部のミゲル・イダルゴ (Miguel Hidalgo) 行政区には、一部を除いて高所得層の居住地域が多い。代表的なのはポランコ地区である。ポーランド系ユダヤ人移民が多いために「Polanco」と名付けられたこの地区は、レフォルマ大通りやロマス・デ・チャプルテペック (Lomas de Chapultepec) 地区のオフィス街に近い。日本の駐在員の多くがこの地区に住んでいる。高級ブティックが立ち並ぶマサリク (Masaryk) 大通りがあり、メキシコを代表する有名な高級レストランも多い。ポランコ地区から南西部クアヒマルパ行政区のサンタフェ地区に向かう途中にある丘や丘の間隔に広がる谷間の部分には、メキシコ市随一の高級住宅街であるロマス・デ・チャプルテペックやボスケ・デ・ロマス (Bosque de Lomas) などの地区があり、富裕層の豪邸や大使公邸などがある。前述のサンタフェ地区は、大手財閥や外資系企業の本社が並ぶ新興オフィス街となっているほか、同オフィス街で働く富裕層向けの高層住宅が立ち並んでいる。

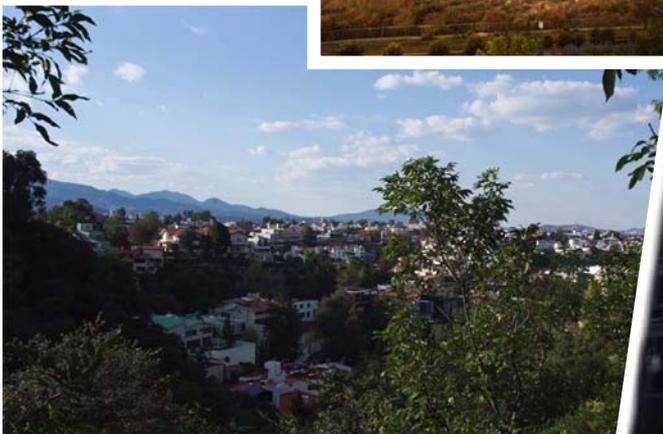
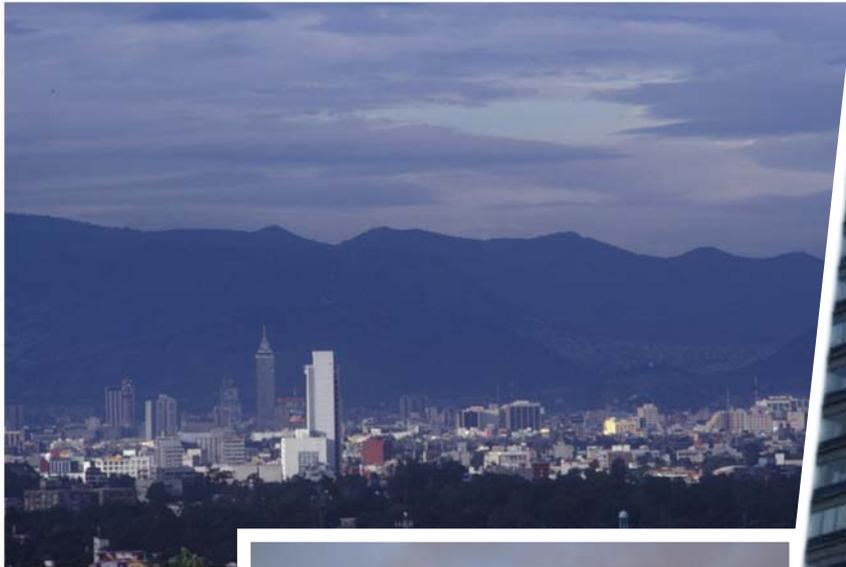
住宅のタイプは？

住宅のタイプは地区によって様々だ。低所得層が多い地区では低所得層向けに建設され、国家労働者住宅基金 (INFONAVIT) と呼ばれる低利融資制度を用いて販売された集合住宅や2階建ての簡単な作りの小規模住宅が多い。INFONAVITを用いて2010年に、メキシコシティの合計7万1,589人に対して1万7,045件の融資が行われた。

日本の駐在員が多いデルバジエ地区やポランコ地区、サンタフェ地区にはコンドミニウムタイプの住居が多く、24時間警備が付いていることが一般的だ。コンドミニウムタイプの住居には4階建てぐらいのものから20階近くの高層タイプのものまで様々あり、富裕層向けの高級住宅の中には、建物内にスポーツジム設備やパーティールームなどが設置されている住宅もある。西部のロマス地区や南部のペドレガル (Pedregal) 地区には、大きな庭園がある大規模1戸建ての豪邸が多い。

昨今は、レフォルマ大通りやポランコ地区などに商業施設と居住施設を合わせた複合施設の建設が進んでいる。ポランコ地区のプラサ・カルソ (Plaza Carso) やパルクエス・ポランコ (Parques Polanco) などが代表的だ。これらの施設の敷地内にはスーパーマーケットや専門店街、スポーツ施設などがある。中にはオフィススペースを併設した複合施設もあり、文化施設 (美術館) を併設した複合施設 (Plaza Carsoなど) もある。



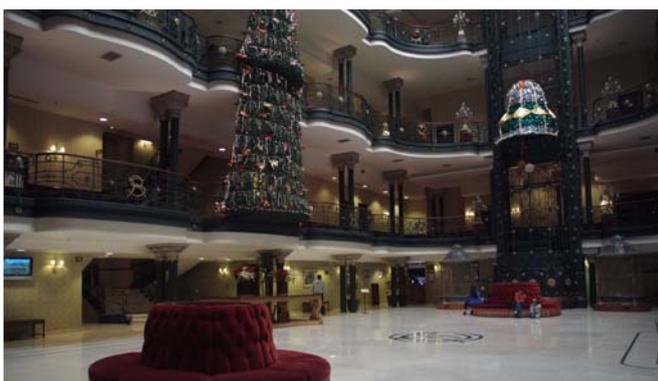


メキシコシティ西部サンタフェ地区などの最新建築物の数々。オフィススペースと住宅スペースを併せ持つ複合施設（コンプレックス）もある。サンタフェ（Santa Fe）地区には高層のコンドミニアムが多い。

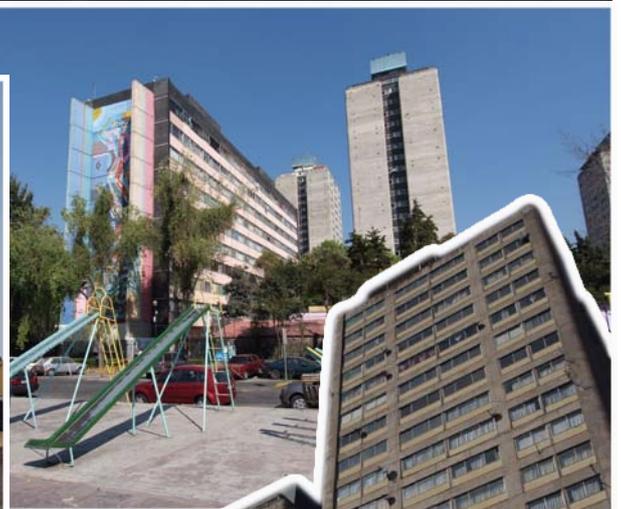
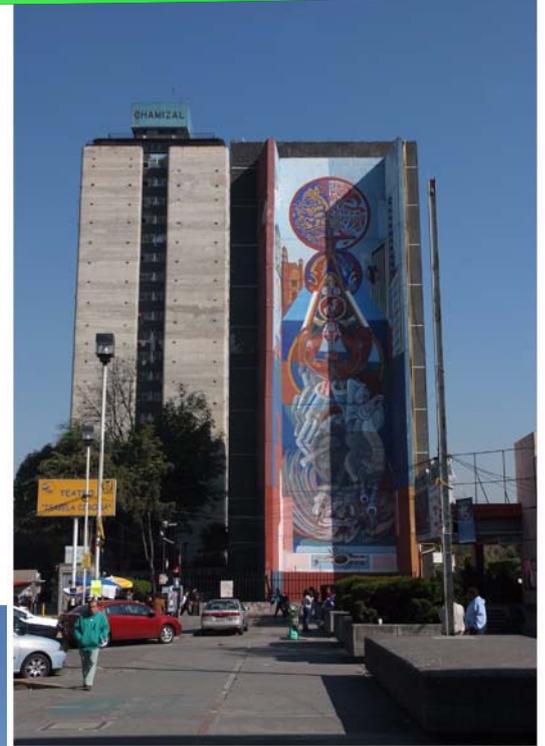




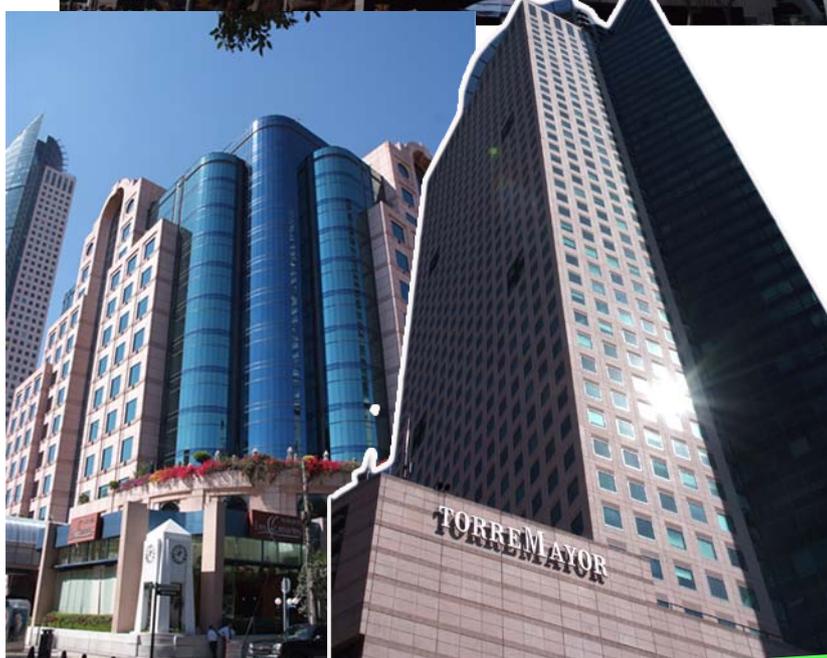
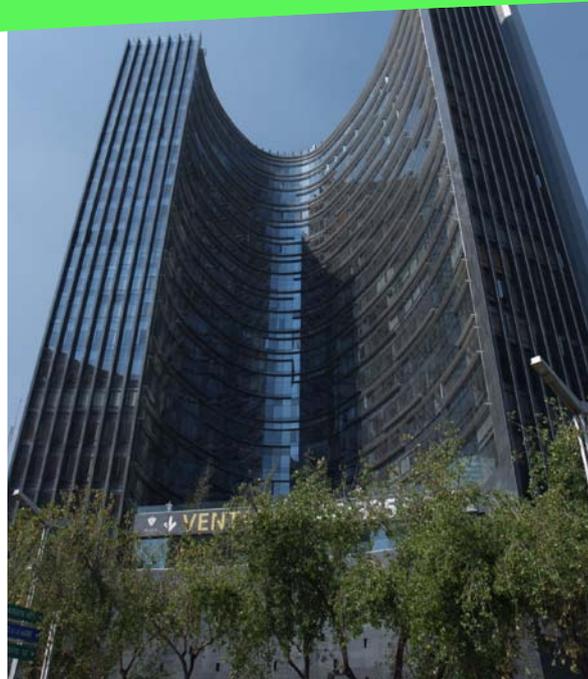
中には300年以上の歴史を持つ建物もある歴史地区（Centro Histórico）の建築物。ホテルや商業施設として利用されているものがほとんどだが、実際に人が住んでいる歴史的建物もある。



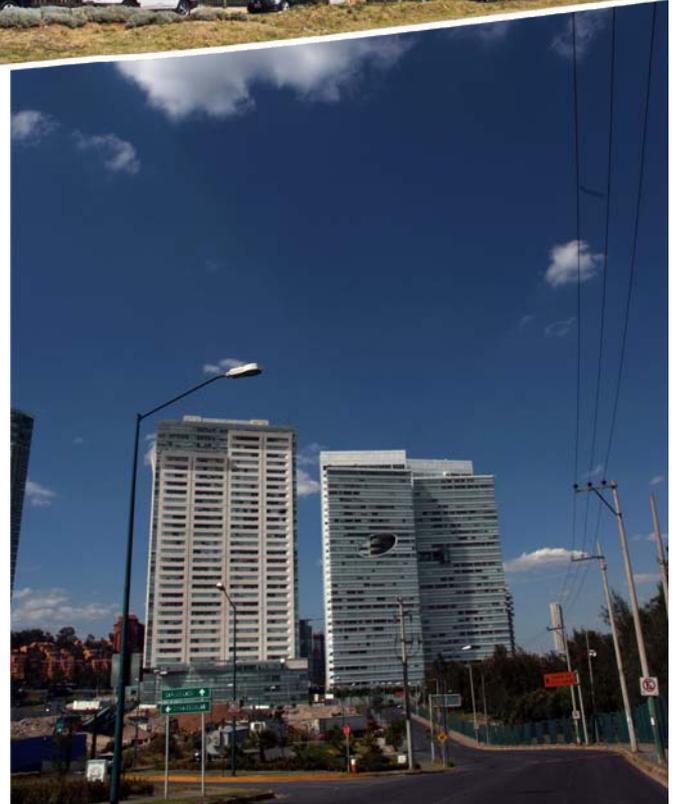
歴史地区に近いメキシコ
市中央部にある集合住宅
の数々。中所得層向けの
住宅が多い。



再開発が進むレフォルマ大通り
(Paseo de la Reforma) の建築物の数々。銀行などのオフィスビルやホテルが多いが、商業施設、オフィスビル、住宅スペースを併せ持つ複合施設も開発されている。



サンタフェ地区の高層コンドミニアム。サンタフェ地区はメキシコ市西部の高台に位置するため、眺めが良い、中心部より大気汚染が少ないというメリットはあるが、都心から少々遠いため、都心との間の移動で渋滞に巻き込まれた場合の時間的ロスが大きい。





メキシコシティ東部イスタカルコ (Iztacalco) 行政区にある集合住宅群。地方から上京し、労働者として首都で働く人々のための居住地として1970年代に開発された。労働者住宅基金 (INFONAVIT) を活用した低～中所得層の住居が多い。

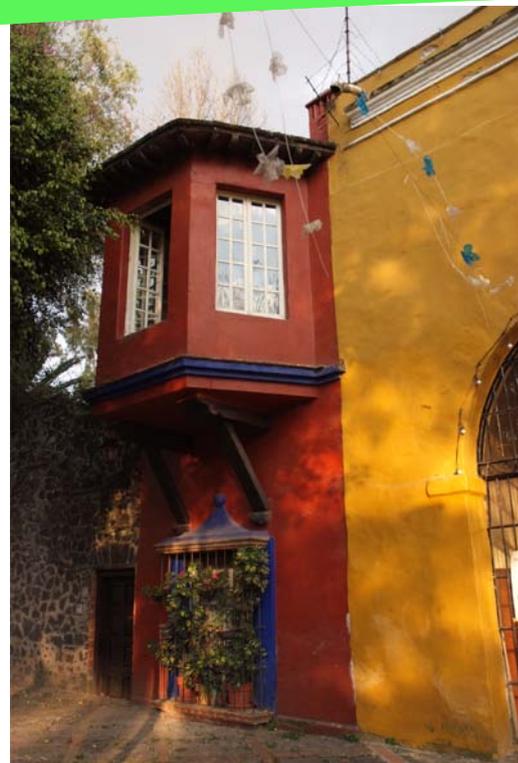




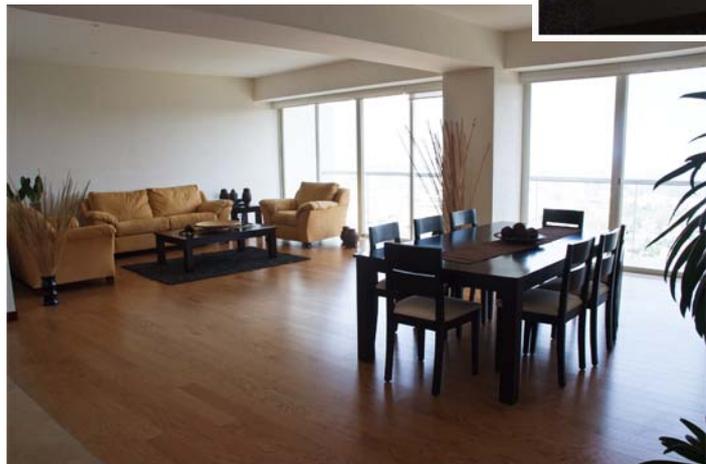
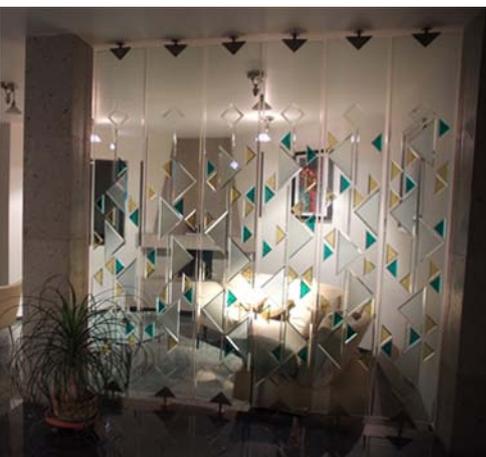
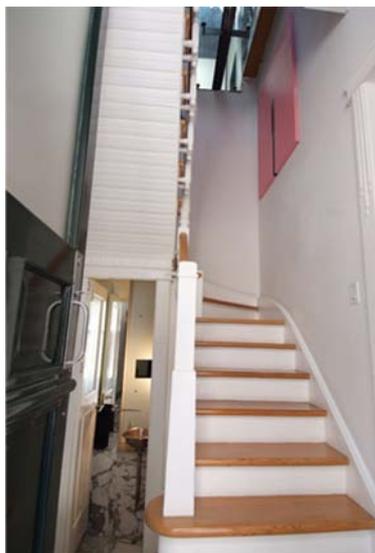
高級住宅街であるメキシコシティ西部
ロマス・デ・チャプルテペック (Lomas de
Chapultepec) 地区にある豪邸。貧富の格差
が大きいメキシコでは、富裕層は日本にも
増して裕福であり、途上国とは思えないよ
うな豪邸が並ぶ。



メキシコシティ南部のペドレガル (Pedregal) 地区にある豪邸。



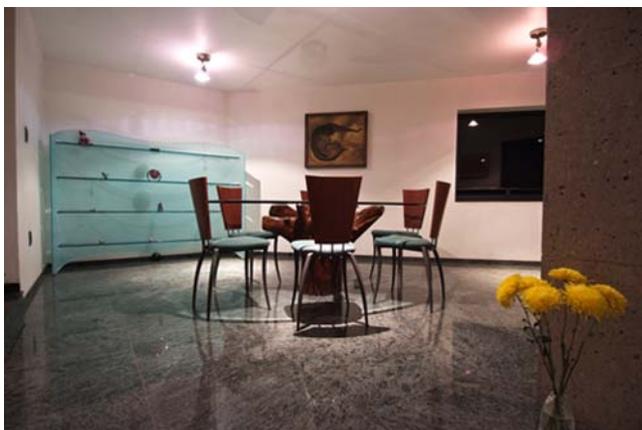
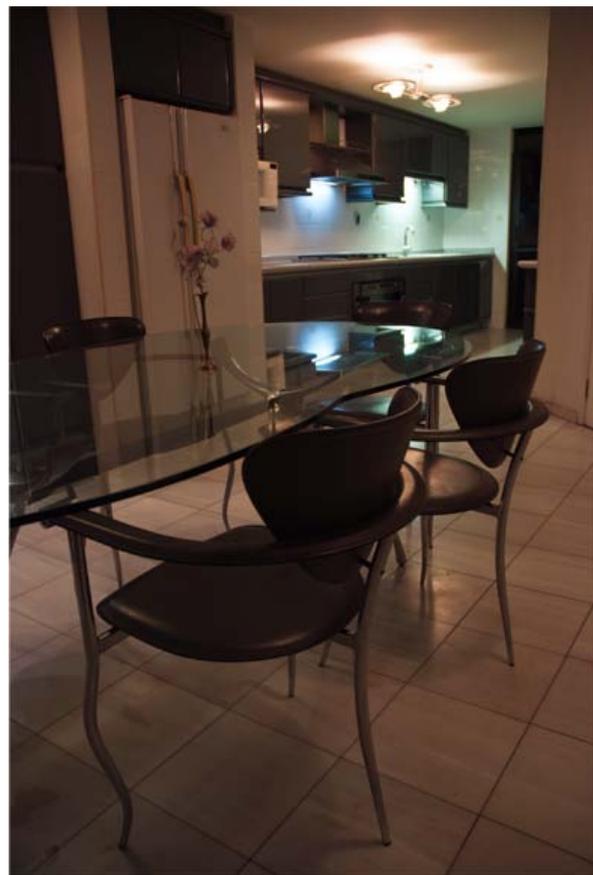
メキシコシティ南部
コヨアカン (Coyoacan)
やサン・アンヘル (San
Angel) 地区の住宅。ペド
レガルや西部の豪邸に比
べると規模は小さくなる
が、雰囲気の良いオシャ
レな町並み特徴。



富裕層が住む豪邸の内部。洗練された芸術的デザインのインテリア。高所得層の住居では、フローリングか天然石の床が多い。



高所得層向けコンドミニアム型住居の内部。ポランコ地区やサンタフェ地区などでは200平米近くあるコンドミニアムは珍しくなく、居間やダイニングスペースは広々としている。寝室も大きく、各寝室にバス・トイレが付いていることが多い。





高所得層向け
住宅のキッチン、
冷蔵庫、
暖房設備など。





一般的な家庭（中間層）の内部。キッチン、ダイニング、寝室も日本の住居サイズに近く、所狭しと家財道具が並ぶ。



家具、照明、電化製品、家庭用品・日曜大工品、事務用品などの専門店舗。近年、市内には米国系のHome DepotやOffice Depotなどの大型専門店舗が増えてきた。



余暇

Leisure





メキシコシティの余暇

メキシコシティは、メキシコ随一の近代都市であると同時にアステカ帝国時代やスペイン植民地時代の伝統を残す文化的な都市でもある。したがって、余暇を楽しく過ごすための素材は豊富に存在する。余暇の過ごし方の中から代表的なものを紹介する。

<ゴルフ>

駐在員の多くが楽しむ娯楽と言えばゴルフだろう。メキシコシティには、Club Campestre (Coyoacan行政区)、Club de Golf Bosques (Cuajimalpa行政区)、Club de Golf México (Tlalpan行政区) の3つのカントリークラブがあるが、メキシコ市の隣にあるメキシコ州のアティサパン市 (Atizapan de Zaragoza) にあるClub de Golf La Haciendaも都心から近く、日本人駐在員も利用している。

ゴルフ場の料金は他の途上国と比較すると高く、ビジター料金で1ラウンド2万円ぐらいたるため、ゴルフ天国とは言えない。ただし、標高が2,200メートルを超え、気圧が低いため、「実力以上に球が飛ぶ？」という噂はある。

<サッカー観戦>

メキシコは他の中南米諸国同様、国民の間のサッカー人気は高く、プロサッカーのレベルも高い。市内にはメキシコ最大のアステカ・スタジアム (Estadio Azteca)、大学都市にあるオリンピック・スタジアム (Estadio Olímpico Universitario)、メキシコ市のクラブチームCruz Azulの本拠地であるアスル・スタジアム (Estadio Azul) の3スタジアムがある。

最も有名なのは1966年に開設されたアステカ・スタジアムであり、6万4,000平米の敷地面積を誇り、10万5,000人の観客を収容可能である。1976年と1986年の2度のワールドカップで用いられたほか、現在でも重要なナショナルチームの試合はここで行われる。

<プロレス観戦>

サッカーと並び、庶民に人気が高いのはプロレスである。メキシコではルチャ・リブレ (Lucha Libre) と呼ばれている。レスラーは善玉と悪玉に分かれており、基本的には善玉が必ず勝つ「筋書きのある」ドラマである。メキシコ人は流血などの生臭いショーは好まず、華麗な空中殺法を好む。日本のタイガーマスクはメキシコのルチャリブレで修業し、空中殺法を磨いたという。市内にはアリーナ・メヒコ (Arena México) とアリーナ・コリセオ (Arena Coliseo) という2つの代表的闘技場があり、ボクシングのイベントも行われている。

<映画>

メキシコでも映画の人気は高い。ハリウッド映画の上映が多いが、国内作品も上映されている。日本映画では宮崎駿のアニメは必ず上映されるようになっている。2010年時点で国内約4,000のスクリーンがあるが、これは2003年時点 (2,823) の2.4倍に相当する。

来場者数も2010年は延べ1億8,900万人に達し、過去10年間で36.0%増加している。

映画館の系列で見ると、全国で最も数が多いのは「シネポリス」(Cinépolis, 2,477スクリーン、シェア5割強)であり、「MMシネマ」(MM Cinemas, 938スクリーン、同2割)、「シネメックス」(Cinemex, 489スクリーン、同1割強)と続く。メキシコシティではシネメックスの勢力が比較的強く、シネポリスと並ぶ2大チェーンとなっている。双方とも高所得層向けのVIPスクリーンを設けており、シネポリスが「VIP」、シネメックスが「プラチナ(Platino)」というブランドで展開し、大幅なリクライニングが可能な広々としたシート(ペア単位)配置が特徴であり、食べ物や飲み物の給仕サービスが付いている。

映画館の料金は安く、普通のスクリーンで約400円(50ペソ前後)、VIPスクリーンで約800円(110ペソ前後)となっている。

<演劇・コンサート>

首都であるため、演劇(ミュージカルやバレエなども多い)作品の上演や有名音楽家・歌手のコンサートなども頻繁に行われる。2010年7月現在、メキシコ全国で567の劇場があるが、そのうち127がメキシコシティにある。歴史地区(Centro Histórico)にある国立芸術院(Bellas Artes)では、民族舞踊のショーも行われている。

コンサート会場としては、メキシコ中西部のチャプルテペック公園にある国立公会堂(Auditorio Nacional)が有名であり、収容人数は9,366人を誇る。

<博物館・美術館>

メキシコ市は博物館や美術館の宝庫である。メキシコ全国の博物館・美術館の数は1990年時点では38だったが、2010年には1,185まで増えている。そのうちの145(12.2%)がメキシコ市にある。内容は古学、美術、科学技術など多岐にわたる。

メキシコシティを代表する博物館といえば、メキシコ国立人類学博物館である。24の展示ルームがあり、コロンブス到来以前の考古学収集品を集めた博物館としては、世界最大の規模を誇る。

<スポーツジム>

高所得層を中心に人気が高いのはスポーツジムである。肥満が多いメキシコでは高所得層を中心に自らの体形と健康を気にする傾向が強くなっており、スポーツジムの利用は年々増えている。スポーツジム国内最大手はスポーツ用品販売大手のマルティ(Martí)グループが経営するSport Cityであり、2010年6月末時点で全国32カ所のジムで合計約7万5,000人の会員を有する。2番手はSports Worldで、全国14カ所のジムで合計1万7,735人の会員を有する。メキシコシティのジムの数で見ると、Sport Cityが22カ所、Sports Worldが7カ所である。

最近話題のジムは、米国のポップ歌手マドンナが高級住宅地であるボスケ・デ・ロマス地区に2010年末に開いたHard Candy Fitness Centerである。3階建てで2,500平米の建屋面積

を有し、毎日2,500人のスポーツ愛好家を受け入れる計画だ。日本人駐在員が多いポランコ地区には、ムンデット (Mundet) という大規模スポーツクラブがある。8万3,000平米の敷地を有するこのクラブには、屋内のジム施設に加えて広大な屋外施設があり、15面のテニスコートや屋外プール、サッカー場などが備わっている。

<世界遺産>

メキシコシティは政治・経済の中心地であるとともに、多くの観光客を受け入れる観光都市でもある。メキシコシティにはユネスコにより世界文化遺産に登録された場所が4カ所も存在し、これらを訪れる日本人観光客も多い。

(1) 歴史地区

スペイン植民地時代の建物が残る歴史地区。約4万6,800平米の広大な憲法広場 (通称「ソカロ : El Zócalo」)、中南米最大の規模を誇る大聖堂 (カテドラル)、アステカ時代の神殿の遺跡であるテンプロ・マジョール (Templo Mayor) が有名。

(2) ソチミルコ

週末になるとメキシコシティの人たちが舟遊びにやってくる。メキシコシティは元々巨大な湖に建設されたアステカ帝国の首都だったが、町が拡大していくにつれて湖は姿を消して行き、今では当時の面影を残すのはソチミルコだけになった。チナンパと呼ばれる古代文明の農法が今でも行われており、舟遊びをしていると川の泥を盛って作った畑を使うチナンパ農法を見ることができる。

(3) ルイス・バラガン邸と仕事場

メキシコ人建築家ルイス・バラガンが建築し自らの仕事場とした建物。バラガンは近代的なシンプルなデザインとメキシコ独特の色彩感覚を調和させ、水や光の効果を建物に大胆に取り入れた建築デザインで世界的に知られている。

(4) メキシコ国立自治大学の中央キャンパス

メキシコ人画家フアン・オゴルマンがメキシコの神話や歴史を描いた巨大なモザイク壁画が4つの壁面にはめ込まれている中央図書館、メキシコの壁画運動を牽引した3大巨匠の一人シケイロスが描いた壁画がある大学本部の建物が有名。

<サイクリング>

メキシコ市政府が環境に優しい「ゼロエミッション」移動手段として推奨しているのは自転車であり、自転車レンタル・スタンドや自転車専用レーンの整備などが進んでいる。メキシコ市政府は毎週日曜日をサイクリング推奨デーに設定し、レフォルマ通りの1区画など主要道路のいくつかの区画を自転車専用道路に指定し、自動車やバイクの通行を禁止している。このこともあり、毎週日曜日はサイクリングを楽しむメキシコ市民の姿を市内の様々な場所でみかける。



メキシコ市内のスポーツ施設。週末になるとスポーツを楽しむ市民が多く集まる。ラテンアメリカで一般的に人気が高いサッカーに加え、アメリカの影響も強く、野球を楽しむ人もいる。





自転車専用道路やレンタル自転車スタンドなどの市政府の積極的なインフラ整備が奏功し、自転車愛好者は年々増えている。週末にはスポーツや娯楽としてサイクリングを楽しむ人が多い。





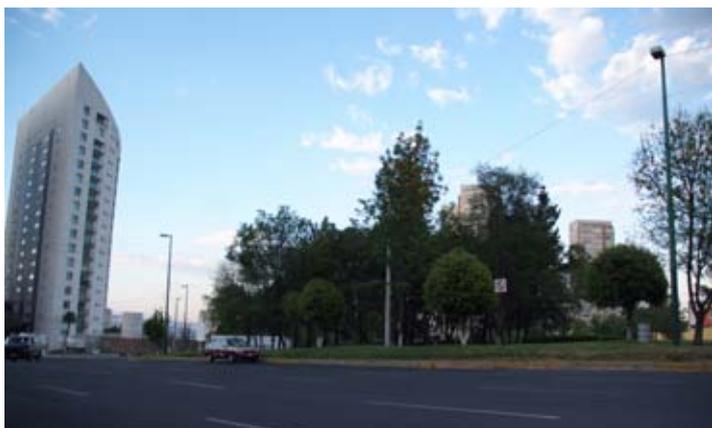
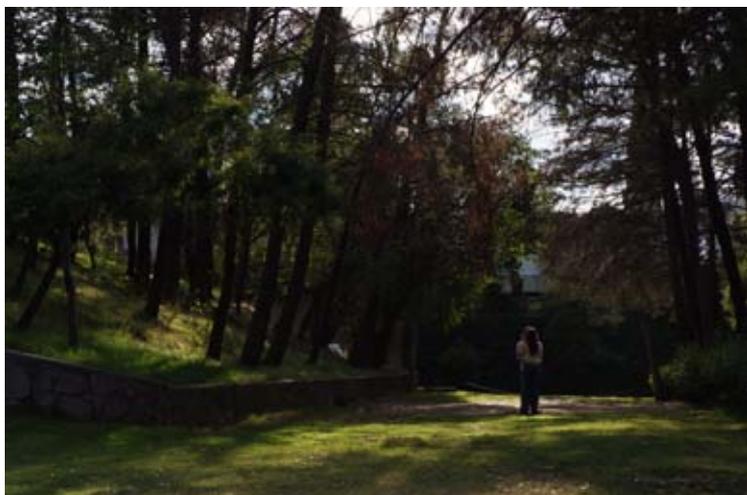
ボーリングやビリヤードを楽しむメキシコ市民。ボーリング場の数は日本より少ないと感じるが、ビリヤード場は比較的多い。メキシコはラテンアメリカ最大のテレビゲーム市場であり、ゲーム機の世帯普及率は途上国の中では高く、携帯ゲーム機の普及も進んでいる。任天堂、ソニー、マイクロソフトの3社がテレビゲーム市場で凌ぎを削っており、昨今はWiiをはじめとする体感ゲームが人気だ。

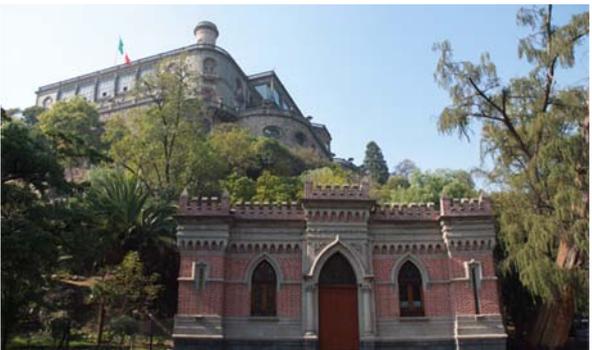
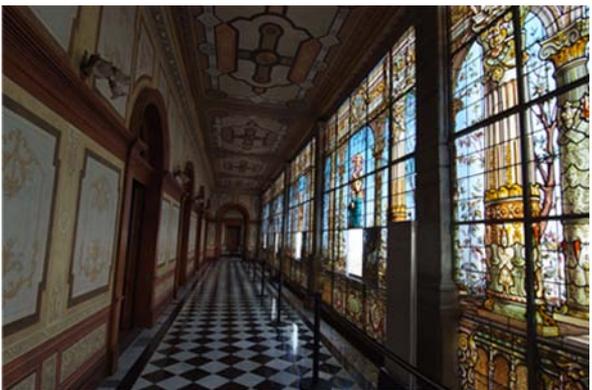




メキシコ市民の憩いの場のチャプルテペック公園。動物園や植物園、遊園地、ボート遊びができる池、博物館など広大な敷地の中に様々な娯楽施設が集まっている。公園内には出店も多く、子供たちは動物などのペインティングを顔に施して楽しんでいる。

市内に多く残る緑地を利用した公園。自動車の数が多く、盆地状のメキシコシティでは大気が汚染しやすいため、二酸化炭素を吸収し酸素を放出する森林や緑地は重要視されている。そのため、無断で木々を伐採すると処罰される。

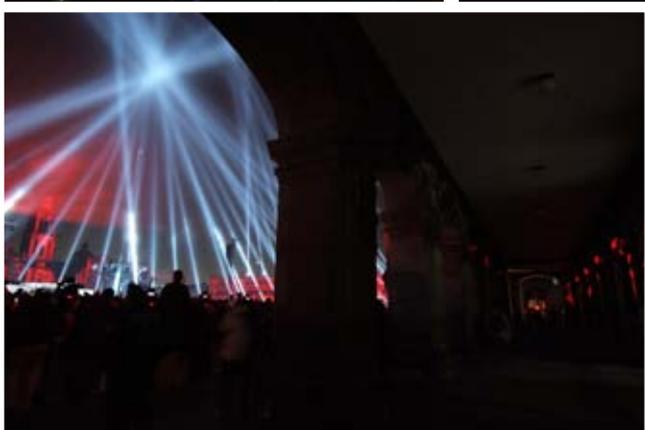




チャプルテペック公園内にあるチャプルテペック城の周辺。チャプルテペック城は植民地時代（18世紀）にスペイン副王（総督）の別荘として建設され、その後メキシコを一時占領したフランスのマクシミリアン皇帝が住居として利用した（1864～67年）こともあり、欧州風の建築様式となっている。現在は歴史博物館になっているが、小高い丘の上に立つため、眺めは素晴らしく、メキシコシティが一望できる。

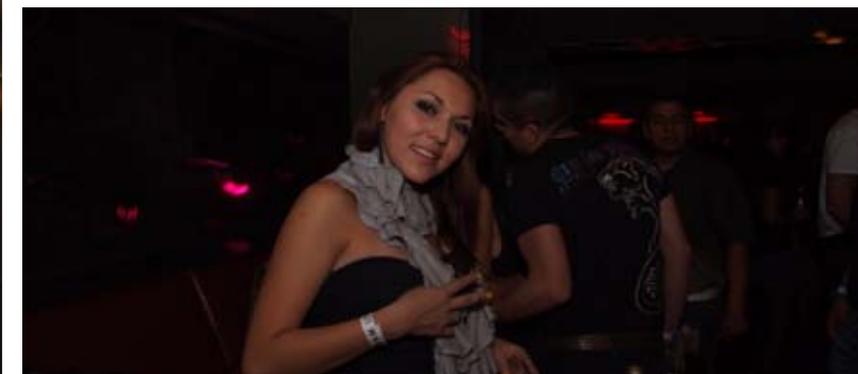


祭り（革命記念日）の夜のメキシコシティの風景。





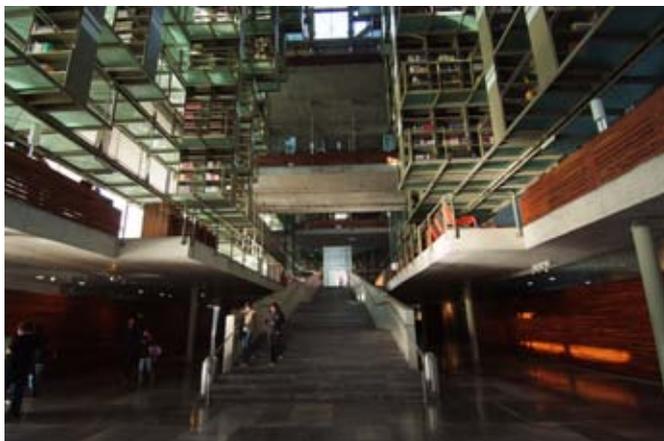
若い人々で賑わうバーやナイトクラブ。早朝5時ぐらいまで営業している店もある。サルサやレゲトンなどのラテン音楽とダンスも人気だ。



市内に数多く存在する映画館。通常シートであれば料金は500円もしないため、お手軽な値段が魅力。ハリウッド映画のほとんどは米国と同じタイミングで封切するため、日本よりも早く鑑賞できることが多い。昨今は日本の映画が上映されることもある。

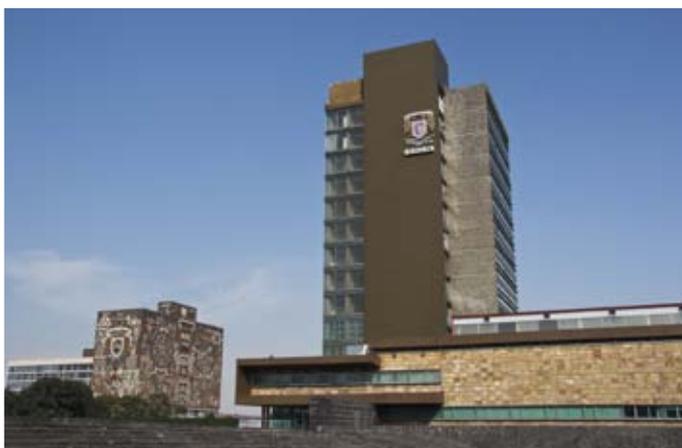


美術館、劇場、博物館など。中段の写真は近代的な建築デザインで有名なバスコンセロス図書館（Biblioteca Vasconcelos）下段の写真は世界有数の規模を誇る国立人類学博物館。





歴史的建築物や壁画など様々なメキシコシティの観光地。1910年のメキシコ革命以降、革命の意義やメキシコ人としてのアイデンティティーを民衆に伝える壁画運動が盛んになったため、市内の多くの建物に当時の壁画が残されている。





市内観光地を巡る観光バス「Turibus」。チャプルテペック公園から歴史地区を巡る「歴史地区ーチャプルテペック」ルートと、ローマ地区マドリッド広場から南部コヨアカン地区を巡る「南部」ルートの2ルートが存在する。夜間（21時～深夜1時）も営業しており、2011年3月現在の料金は昼間が1日125ペソ（週末は145ペソ）、夜間は75ペソだ。

暮らし

Life Style



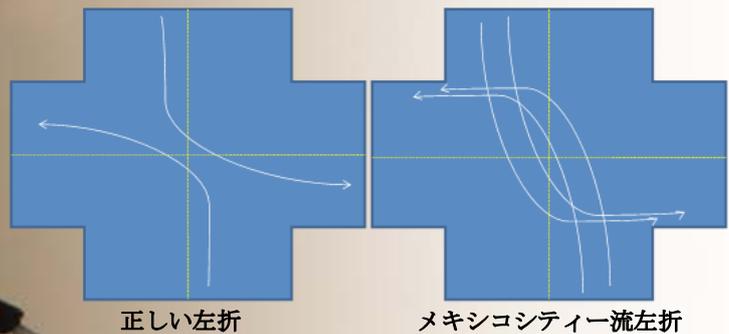


<交通事情>

(1) 交通渋滞と運転マナー

メキシコシティ日々の生活で悩まされるのが、悪化の一途を辿る交通渋滞と運転マナーの悪さである。自家用車を買える所得層のほとんどは公共交通機関を使わないので、所得水準の上昇に応じて年々自家用車の数が増え、道路整備が自家用車の拡大に追いつかない状況となっている。朝7時～9時30分、夕方6時～9時は深刻な交通渋滞に見舞われ、主要幹線道路が「駐車場」（車がほとんど動かない状態）と化す。

また、メキシコシティでは、運転免許取得に際して学科試験もないため、市民の大半が正しい交通ルールを知らない。メキシコシティで運転免許を取得するためには、事前に銀行などで手数料を支払った上で、市の行政区役所が運営する運転免許発行所に行き、記入済みの申請書と公式身分証明書、住所が確認できる書類を提示すれば良い。ざっとみて、走行する車の8割以上が方向指示を出さない。左折、もしくは右折する際は、事前に車線変更して曲がる方向の車線に寄ることをせず、自分がいる車線からいきなり曲がり始める車も多い。最悪なのは、左折（日本でいう右折）の仕方を知らないことだ。左折する場合、交通ルールでは交差点の中央から手前で左折するのがルールだが、メキシコシティの場合、交差点の中央から奥に回り込んで左折しようとする。そのため、先頭車両に続く車列でお互いに反対方向からくる車の左折を塞いでしまうのである。さらに、前の車の後におとなしく続いて待つことをよしとせず、前の車のさらに先に回り込もうとする。したがって、左折のために要する車線は左1車線では済まず、中央車線まで塞いでしまう。このメキシコシティ流左折によって生まれる交通渋滞は、メキシコシティの各々で頻繁にみられる。



(2) タクシー

2009年末時点でメキシコシティには合計12万8,438台のタクシーが走っている。タクシーには、大きく分けて4種類ある。①流しのタクシー（Libre：リブレ）、②プー

ス待機タクシー（Sitio：シティオ）、③ラジオタクシー（Radio Taxi）、④ホテル付タクシー（Turismo：トゥリスモ）の4種類。料金は①が最も安く、④が最も高い。②の中には電話で呼べる③のサービスが付いたものが多い。①は時折、タクシー強盗に早変わりすることもあるため、駐在員や旅行者は安全のために②～④を使った方がよい。

①のメーター料金は、2ドアのものは初乗り5.8ペソで250メートル毎、もしくは45秒毎に0.78ペソが加算される。4ドアのものは初乗り6.4ペソで加算料金は同じ。②のメーター料金は初乗りが9.6ペソ、250メートル毎、もしくは45秒毎に0.96ペソが加算される。③や④の料金はメーター制でないものが多く、目的地のゾーンによって料金が決まっているため、乗る際に確認する必要がある。なお、タクシーにチップは不要だが、重い荷物を持ってもらった場合は1ドル程度のチップを支払うことが多い。

(3) 地下鉄 (METRO)

メキシコシティ最大の公共交通機関であり、毎日386万人（2010年実績）の市民を輸送している。ただし、車内は決して清潔とはいえず、空調（エアコン）なども備わっていないため、高所得層が地下鉄に乗ることはまずない。

現在、METROはバックアップも含め、13タイプの合計3,042車両を有しているが、うち11タイプは鉄道レールを用いず、タイヤを用いたものである。2011年2月時点で11の路線があり、総延長は176.8キロメートルに及ぶ。現在、12号線を建設中。

(4) メトロバス (Metrobus)

2005年6月に運行が開始された比較的新しい公共交通機関であり、大きな成功を収めている。バス専用レーンを走り、乗客が速やかに乗り降りできるように乗り場が配置されていることから、効率的な人員輸送が可能となっている。清潔な最新型2両連結バスを用いており、比較的裕福な層の利用もある。市政府によると、メトロバスの登場により、2万2,000人が自家用車の利用を止め、バス通勤に切り替えたという。これにより、毎年8万トンのCO2排出削減につながっている。

現在、2005年に開設された1号線に加え、2008年12月に開設された2号線が走っており、毎日45万人の利用者がある。一般車両の走行が禁止されたバス専用レーンを走るため、事故が少ないという特徴があるほか、緊急時に救急車やパトカー、消防車がバス専用レーンを走ることができ、渋滞の激しい通常道路では緊急車両も身動きが取れないため、専用レーンが人命救助に役立っている。

(5) レンタサイクル (ECOBICI：エコビシ)

自転車「ゼロ・エミッション」移動手段として推奨するメキシコ市が2010年2月に導入したレンタサイクル・スタンド・ネットワーク。市内90ヵ所にスタンドを配置し、1,200台の自転車を備えている。

エコビシを利用するためには、利用者カードを年間300ペソ（約25ドル）で作成する必要がある。基本的には短距離・短時間利用を前提としているため1回45分までは

カード料金だけで済むが、利用時間が45分を超えると追加料金がかかり、クレジットカードなどで支払う必要がある。エコビシは借りたスタンド以外のスタンドで返すこともでき、スタンドとスタンドの間隔は約300メートルである。市政府によると、導入から1年間で利用者数は2万4,000人に達したという。

<金融事情>

1990年代以降の外資規制緩和に伴い、メキシコにはスペイン（BBVA、Santander）、イギリス（HSBC）、米国（シティバンク）など多くの外資系銀行が企業買収や子会社形態で進出し、金融業界における外資の影響力が強くなっている。日本の三菱東京UFJ銀行も現地法人を設立しているが、法人営業しかしていない。

メキシコで最も支店数が多いのは、スペイン系のBBVA Bancomer 銀行であり、米国シティバンクの子会社であるBanamex、イギリスのHSBC、メキシコ資本のBanorte、スペインのSantanderと続く。2010年末時点でメキシコシティには1,767の銀行支店と3,267台のキャッシュディスペンサーがある。

<通信事情>

メキシコでは固定電話よりも携帯電話の方が普及しており、携帯電話の普及率は全国で81.3%、メキシコシティでは100%以上（220.9%）に達する。メキシコでは利便性からプリペイド携帯電話を利用している人が多く、2010年末時点で携帯電話利用者の86.2%がプリペイドの利用者である。第3世代携帯電話でもプリペイド愛好者がおり、プリペイドのiPhoneなども売られている。

プリペイド携帯電話の場合、街角商店や路上販売員が販売する金額別（100ペソ、200ペソ、500ペソなど）の利用カードを購入してコードを入力するか、コンビニやスーパーのレジで電子的にチャージするか、どちらかの方法で事前に残高を貯めておく必要がある。基本的に電話を受けるのは無料であるため、自分から電話をかけるときだけ必要に応じて20ペソなどの小額をコンビニでチャージする低所得層もみかける。

<コンビニエンスストア>

女性の社会進出などライフスタイルの先進国化により、メキシコでもコンビニが増加している。公共料金、罰金、税金などの様々な支払いがコンビニで行えるようになり、利便性が増していることもコンビニ増加の要因だ。

国内店舗数最多はメキシコ最大のコココーラ・ボトラーであるFEMSAが経営する「OXXO」であり、全国合計で8,246（2010年12月末時点）店舗を展開している。第2位は国際的フランチャイズである「セブンイレブン」で、全国約1,170店舗（2010年11月時点）を展開している。第3位はコロナ（Corona）で有名なビール会社の（Grupo Modelo）が経営する「Extra」で、2009年末時点で830店舗を展開している。





市内に11路線
ある地下鉄
(Metro) とバ
ス専用レーン
を走るメトロ
バス (Metrobus)
。地下鉄とい
ってもメキシ

コシティーの場合
は地上を走る区
間も多い。地下
鉄の運行時刻は
安定しておらず
、次の列車が15
分来ない時もし
もある。ほとん
どの路線で車内
に空調がないた
め、特に朝晩の
混雑時は快適と
は言えない。メ
トロバスは近代

的な2両連結車
両を用いている
ため清潔感があ
り、比較的所得
が高い層でも利
用している。

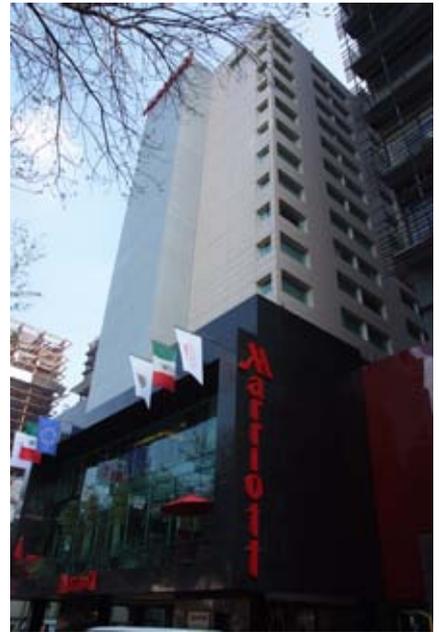




上段の写真は、2009年に開始された歴史地区の「シクロ・タクシー (Ciclotaxi)」。人力で動く3輪車の動力を電気モーターで補助している。中段の写真は、2008年に操業開始した郊外と都心を結ぶ郊外旅客鉄道 (Tren Suburbano) の第1系統。現在、第2系統、第3系統の入札を準備しており、郊外から都心に自動車や乗り合いバスで通勤する人々の代替移動手段となることを目指している。下段はタクシーブースで待機するタクシー。

市内の大手銀行の支店とキャッシュディスペンサー。メキシコシティの金融インフラは国内で最も整備されており、市内のいたるところに支店があるほか、24時間利用可能なキャッシュディスペンサーが数多く設置されている。一般的に銀行の窓口は混雑しているが、銀行によってはVIP客専用の特別窓口が設けられており、口座残高が多いVIP利用者は専用窓口を利用することが可能。



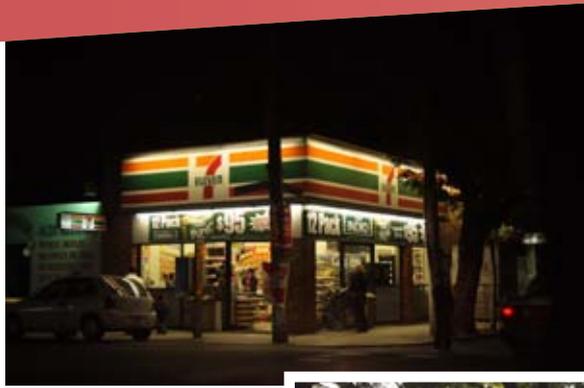


上段の写真は、メキシコシティの主要なホテル。シェラトン、マリOTTなどの米系ホテルやメリアなどの欧州系ホテルチェーンが進出しているほか、メキシコ資本のフィエスタ・アメリカナ（Fiesta Americana）系列、同じくメキシコ資本のカミノ・レアル（Camino Real）ホテルなどがある。下段の写真は、市民の大半に普及している携帯電話会社のサービス・オフィス。携帯電話市場の約7割を占める世界最大の富豪カルロス・スリム（Carlos Slim）が所有する電話会社テルセル（Telcel）のほか、スペインのテ



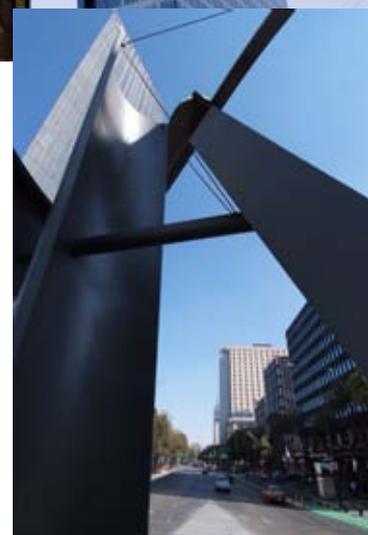
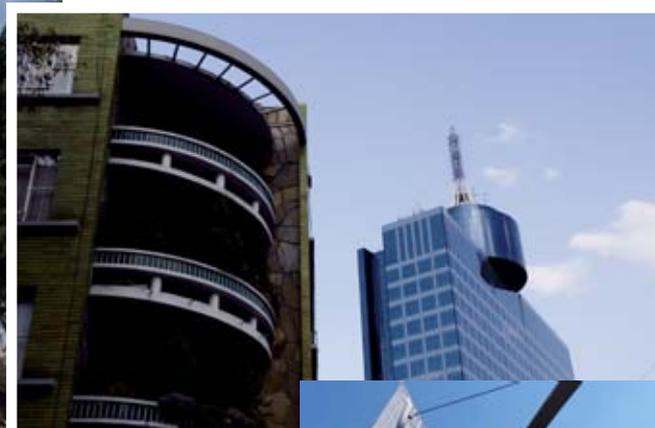
レフォニカ・モビスター（Telfónica Movistar）とメキシコ資本のイウサセル（Iusacell）、米国のネクステル（Nextel）が参入している。



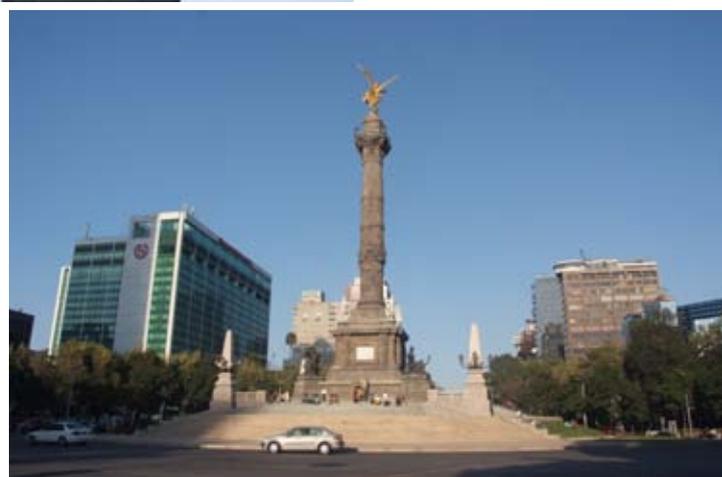


急速に広がりつつあるコンビニエンス・ストアのフランチャイズ網。24時間経営がほとんどで、プリペイド携帯電話の課金や公共料金の支払いもでき、利便性が上がっている。昨今は銀行との契約に基づき、銀行の窓口業務の一部を代行しているコンビニもある。





メキシコシティを代表する建物やモニュメント。上段はワールドトレードセンター。中段左はラテンアメリカで最も高い建物のトーレ・マジョール（Torre Mayor）。中段中央と右下はメキシコ



シティのシンボルである独立記念塔（Ángel de la Independencia）。左下の写真の黄色いモニュメントは35階建ての高層ビル（Torre del Caballito）の前に作られた馬のモニュメント「エル・カバジート（El Caballito）」。

上段の写真は死者の日（11月2日）の墓地の風景と死者の日に食べる死者のパン（Pan de Muerto）や墓前のお供え。死者の日にはマリーゴールドの花が供えられるほか、骸骨の形のお菓子も供えられる。メキシコでは先史時代から骸骨を死と生まれ変わりの象徴として飾る習慣があ



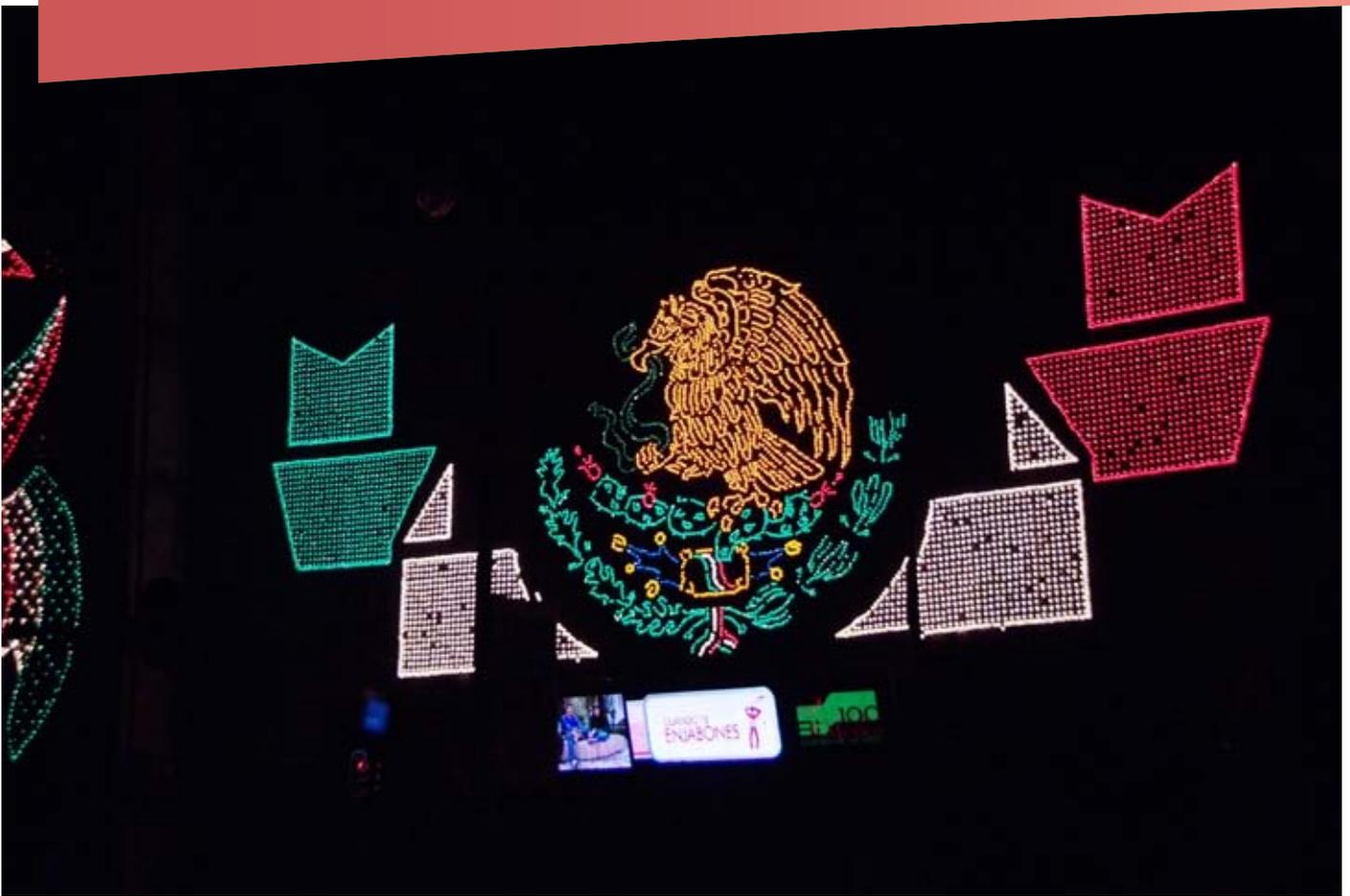
り、骸骨はメキシコでは親しみやすいオブジェとなっている。中～下段の写真はクリスマスイブの風景。





上段の写真はメキシコ市北部にあるグアダルルーペ寺院。先住民の肌の色をした褐色の聖母マリア（Virgen de Guadalupe）が発見された丘のふもとに立つ。1万人規模を収容できる寺院でメキシコ各地からカトリック教徒が巡礼に来る。中段の写真はメキシコを代表する楽団様式であるマリアッチ。ビウエラ、ギター、ギタロン、バイオリン、トランペット、フルート、アルパなどの楽器を用いる。下段の写真は革命記念日（11月20日）のパレード。





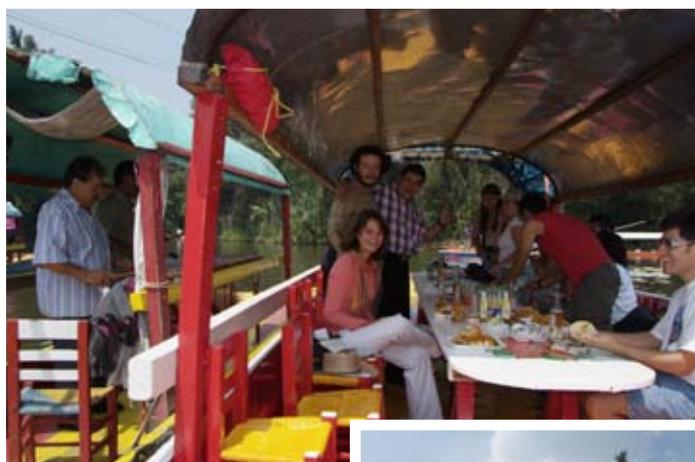


クリスマスシーズンに歴史地区の憲法広場（Zócalo）にオープンするスケート場。入場料は無料。スケート靴は貸してくれる。





上段の写真は、クリスマスイブの憲法広場（ソカロ）。華やかなイルミネーションを見に多くの市民が集まる。下段の写真は、週末の舟遊びで有名なソチミルコの風景。湖の上に作られた昔のメキシコシティの名残を見せる観光地で、舟遊びをしていると、食べ物を売る船やマリアッチ楽団を乗せた船などが近寄ってくる。



Mexico City Style

< 撮影・編集協力 >

撮影編集指揮——**Pedro Sierra Romero** (ペドロ・シエラ・ロメロ)

写真撮影——**Ernesto Navarrete Arauza** (エルネスト・ナバレテ・アラウサ)

デザイン——**Gullermo Castañeda Suárez** (ギジェルモ・カスタンエーダ・スアレス)

【免責事項】

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の損失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

Copyright © 2011 JETRO. All rights reserved.

本書の一部または全部の複写（コピー）・複製・転載及び記録媒体への入力等は、著作権法上の例外を除き、禁じます。これらの許諾については、ジェトロまでご照会ください。

